RESOLUTE ACCLAIM
WOODBURNING STOVE
取扱説明書
MODEL#2490
［レゾリュート・アクレイム］

VERMONT CASTINGS

ようこそ薪ストーブの国へ
Welcome to Wood Stove-Country.

薪ストーブの国へ、ようこそいらっしゃいました。
この度は、バーモント・キャスティングス社の〈レゾリュート・アクレイム〉を
お買い上げいただき、ありがとうございます。
今日から、あなたも薪ストーブの国の住人です。

さて、これから薪ストーブの炎がゆらめく素晴らしい日々がはじまりますが、
その前にお願いしたいことがあります。
それは、この「取扱説明書」を必ずていねいにお読みいただくことです。
そして、この薪ストーブをより正しくご使用し、
いつまでもこの薪ストーブとともに暖かい人生を
分かちあっていただきたいということです。
なお、この説明書は保管していただき、
後日、分からないことが起こった折に再読なされることをおすすめします。

目次

安全に正しくお使いいただくために ・・・・・・・ 4
1. レゾリュート・アクレイム ・・・・・・・・・・・・・・・ 8
2. レゾリュート・アクレイムの基礎知識 ・・・・・・ 9
3. 本体及び煙突設置基準 ・・・・・・・・・・・・・・・・12
4. 薪について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
5. 薪の着火と燃焼維持
着火の前に用意するもの・・・・・・・・・・・・16
各操作レバー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
慣らし焚き・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
焚き方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
薪の補充 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
消火・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
灰の処理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
エアコントロールについて・・・・・・・・・・・・23
6. ドラフト管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
7. メンテナンス
メンテナンス・スケジュール・・・・・・・・・・30
薪ストーブ本体のお手入れ ・・・・・・・・・・31
ドアガラスの交換・・・・・・・・・・・・・・・・・32
ファイバーロープの交換 ・・・・・・・・・・・・33
ドアの調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
バイパスダンパーの調整・・・・・・・・・・・・37
耐火ブリックの交換と
二次燃焼室の点検清掃・・・・・・・・・・・・・38
煙突掃除 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
8. パーツリスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
9. トラブルシュート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
10. 保証とアフターサービス ・・・・・・・・・・・・・・47

必ずお読みください

安全に正しくお使いいただくために

警告表示について

この取扱説明書には、安全にお使いいただくためにいろいろな警告表示をしています。誤った取扱いをすることによって生じる内容を、次のように区分しています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告表示の意味

危険

人が死亡または重傷を負う恐れが高い内容を示しています。

警告

人が怪我または財産に損害を受ける恐れがある内容を示しています。

表示は、してはいけないことを表しています。

表示は、しなければならないことを表しています。

⚠ 危険

設置上

本体及び煙突の設置は、建築基準法及び消防法お住まいの地域の火災予防条例に従ってください。

ご使用前には本体及び煙突が安全に設置されているかどうか必ず点検を行ってください。（設置基準については本書 12、13 ページをご覧ください）もし、設置の不備や変形及び破損を発見した場合、そのままご使用にならず、お買い求めの販売店へご相談ください。製品の取付方法を誤ると、建築物への損傷はおろか地域住民の健康を害することにもなり兼ねないため、ご注意ください。

本体は必ず本書 12、13 ページの内容に従って設置してください。法規条例と矛盾する場合には法規条例を優先してください。可燃材の上に設置すると、輻射熱、熱伝導により、火災の原因となります。床を適切に保護し、付属のボトムヒートシールドを必ず取付けて使用してください。

室内の空気を燃焼空気として使用しますので、ストーブ設置室には燃焼空気を取り入れる給気口が必要です。

本体を不安定な場所へ設置しないでください。転倒による怪我や破損の原因となります。

本体正面の 122cm 以内に、薪、家具、カーテン、洗濯物等燃えやすい物を近づけないでください。火災の原因となります。

ストーブ廻りの可燃物との離隔距離は本書 12、13 ページに従って設置してください。

⚠ 危険

使用上

⃠ 本書 30 ページにもとづくパーツ交換等のメンテナンス以外での本体の分解、またお客様ご自身の判断による本体の改造はしないでください。正常な燃焼が行われず本体の破損や火災の原因となります。

⃠ 引火性のあるガソリン、灯油、揮発性の液体や、スプレー缶などの高圧容器等を本体の上やそばに置かないでください。爆発、引火による火災や有害物質の発生の原因となります。

⃠ 本体、煙突に強い衝撃や過度な力を与えないでください。破損の原因となります。

❗ ご使用中トップドア（クッキンググリドル）やフロントドアを開ける際には必ずバイパスダンパーを開けてください。バイパスダンパーを閉めたままトップドアやフロントドアを開けると室内に煙や炎が流出し危険です。

⃠ トップドア（クッキンググリドル）とフロントドアを同時に開けないでください。室内に煙や炎が流出し危険です。

⃠ ご使用中に各ドアを開けたまま本体のそばから離れないでください。火の粉が飛んだり、薪が転がり落ちて火災の原因となります。

⃠ 焚きすぎないでください。ストーブトップ温度 350℃以上で継続して使用すると本体の破損や火災の原因となります。

❗ 定期的（少なくとも 1 年に 1 回）に本体及び煙突のメンテナンスを行ってください。メンテナンスを怠ると正常な燃焼が行われず、ストーブの破損や火災の原因となります。詳しくは本書 30 ページの「メンテナンス」をご参照ください。

❗ 定期的（少なくとも 1 年に 1 回）に煙突内部の点検を行ってください。特に煙突内部にススがたまると煙突火災がおきる可能性があり、非常に危険です。内部にスス、クレオソート等が 3 mm以上たまっていれば、必ず煙突掃除を行ってください。万一煙突火災（28 ページの「クレオソート」をご参照ください。）が発生した場合、バイパスダンパー、火力調整レバー、各ドアを閉めて屋外へ避難して消防署に連絡してください。後に必ず専門業者に点検を依頼してください。

❗ 灰は火の気が完全に消えたことをご確認の上、不燃性の密閉できるフタの付いた灰取りバケツに入れて、72 時間以上経過してから冷えていることを確かめて処理してください。また、灰取りバケツは必ず厚み 5 cm以上の金属以外の不燃材の上に回りの可燃物から遠ざけて置いてください。可燃材の上に置くとバケツ底面からの熱が伝わり、火災の原因となります。

⃠ お子様をストーブに近づけないでください。火傷や怪我の危険があります。あらかじめオプション品のハースゲート等のフェンスを設けることをおすすめします。

必ずお読みください

安全に正しくお使いいただくために

⚠ 警告

⃠ 乾燥した自然の薪以外は燃やさないでください。有害物質の発生や本体の変形、破損の原因となります。

⃠ 塩水、海水につかった流木、ペンキ、薬品、接着剤など化学処理された木材、紙類、生ゴミ、プラスチック、ガソリン、オイル、灯油等を燃さないでください。

⃠ ガラスを叩いたり、ドアを激しく閉めないでください。ドアガラスが破損する可能性があり、危険です。また各ドアで手を挟まないように気をつけてください。

⃠ 急激な温度変化（急冷却、急加熱）を与えないでください。本体の変形、破損の原因となります。

⃠ 過度な加熱、局部的な加熱をしないでください。本体の歪み、割れ、変形等の原因となります。

❗ 必ずお買い求めの販売店からストーブの焚き方について説明を受けてください。

❗ 事故防止のために、ご就寝の際には、本体のすべてのドアを完全に閉めてください。また周囲に燃えやすい物が無いことをご確認ください。

❗ 事故防止のために、お出かけの際には、本体が完全に冷えていることをご確認ください。

❗ 地震や落雷にあった場合、本体及び煙突まわりの点検を行ってください。変形及び破損、煙突の接続、支持不良、または建物の損壊を発見した場合、そのままご使用にならず、お買い求めの販売店へご相談ください。なお、隠蔽部等、お客様ご自身で点検が困難な場合、お買い求めの販売店へご依頼ください。

❗ ご使用中は本体及び煙突が非常に高温になりますので、火傷には十分気をつけてください。

❗ ご使用中、万が一火傷を負ったときは、応急処置として、すぐに患部を流水にて 15 分以上冷やしてください。なおその際、強い水圧は当てないでください。その後速やかに医師の診断を受けてください。

⚠ 注意

❗ 非常時に備え消火器を決まった場所に置いてください。

🚫 湿気、塩分の多い場所、または有害薬品のある場所への設置はしないでください。本体の破損や腐食の原因となります。

火災の早期発見のため煙感知器を設置してください。その際ストーブとの距離を考慮に入れ誤報にならない様注意が必要です。お住まいの地域の火災予防条例に従ってください。

🚫 本体の燃焼中に換気扇を使用する場合には、煙が逆流（室内にもれる）しないことをご確認の上ご使用ください。もし煙が逆流する時は、ご使用をおやめになり販売店へご相談ください。

❗ 本体を焚き始める前に、必ず「慣らし焚き」を行ってください。いきなり高温で使用すると破損の原因になります（「慣らし焚き」の方法については 17 ページをご覧ください）。

❗ 焚きはじめの数回は、部屋を十分に換気してください。薪ストーブと室内煙突に塗られている錆び止め油や塗料が熱せられ、においと煙が発生します。

❗ ホウロウ仕上げの本体は、性質上、仕上げ面が衝撃に非常に弱い為、お取扱いに十分ご注意ください。またホウロウに急激な温度変化を加えないでください。破損、剥がれの原因となります。

🚫 薪をくべる時などの操作時には、化学繊維で作られた手袋や軍手の使用は避けてください。専用の皮製ストーブ・グローブを使用し、なおかつ火傷には十分ご注意ください。

❗ 本体のお手入れは、本体が完全に冷えていることをご確認の上行ってください。火傷の原因となります。

🚫 本体が錆びますので、水分、塩分を付着させないでください。誤って付着した場合はすぐに拭きとって乾かしてください。

「レゾリュート・アクレイム」

1 歴史を受け継ぐもの

1975年、バーモントキャスティングス社は二人の起業家によって設立されました。時はまさに石油高騰オイルショックのさなか。人々は石油にかわる安価な燃料を探し求めていました。

バーモントキャスティングス社は、デファイアントという当時としては驚異的な燃焼効率を誇る薪ストーブを世に送り出しました。この成功をもとに生産体制を整え、1979年レゾリュートを発表。ステップトップのエレガントなデザインは人気を博しました。

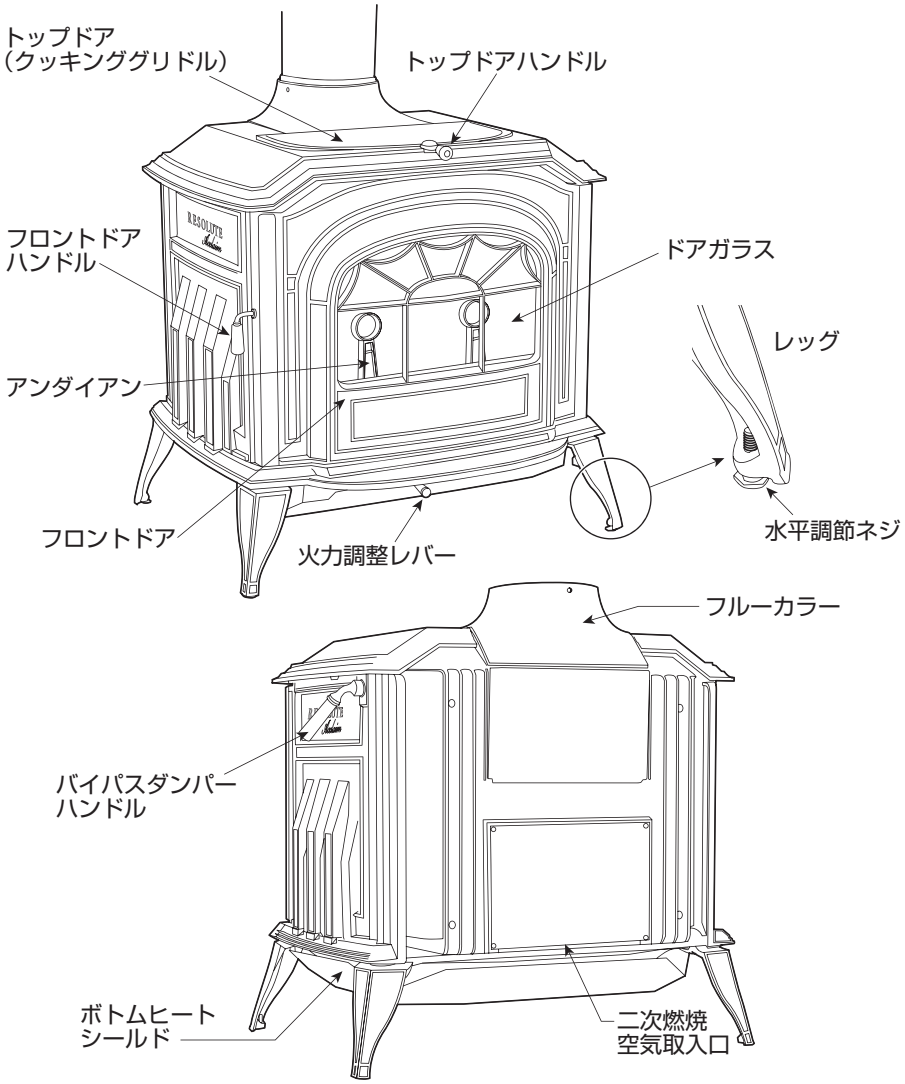
その後、モデルチェンジを経て改良が加えられ、大気汚染が問題視されだした1988年、触媒を使わずに EPA の環境基準をクリアした「レゾリュート・アクレイム」として新たなスタートを切りました。

「強い意志、不屈の精神（＝レゾリュート）に拍手喝采を贈る（＝アクレイム）」がその意味。「アクレイム」の呼び名で親しまれています。

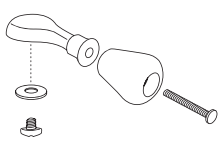
アクレイムは初代のデザイン「ステップトップ」はそのままに、大きくなった1枚の扉、優しい輻射熱が得られるコンベクションタイプのサイドパネル、トップドア（クッキンググリドル）から薪を投入できたり、炎がきれいに眺めることができるエアウォッシュ機構の付いた窓など、多くの薪ストーブライフを満喫頂ける機能が盛りだくさんです。末永くレゾリュート・アクレイムの美しく燃えさかる焔をお楽しみください。

レゾリュート・アクレイムの基礎知識

各部名称

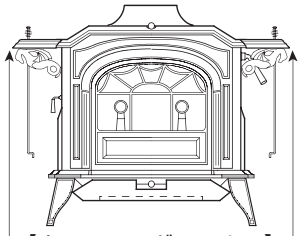


トップドアハンドル
(木製)

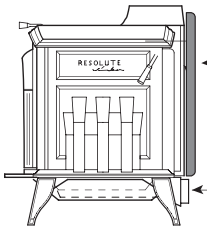


ダンパーハンドル(木製)

オプション

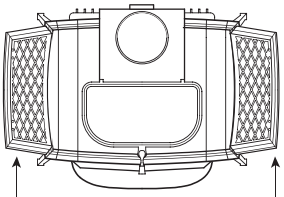


【ウォーミングシェルフ】
ミトンラック付



【リアヒート
シールド】
壁とのクリアランスを
狭めることができます。

【給気アダプター】
燃焼用の空気を屋外から
供給することができます。



【ウォーミングシェルフ】
料理を温めたり、トップドアより
薪をくべる時に鍋等を置くことが
できます。

レゾリュート・アクレイムの基礎知識

2 レゾリュート・アクレイムの機能と特長

●燃焼コントロールシステム

1 一次空気調整

ストーブの正面下部にある火力調整レバーで薪の燃焼に必要な空気の量を増減します。ストーブに入る空気が多いほど、火はより強く燃え、空気量が少ないと弱くなります。

ストーブの底面より給気された一次空気は底面から空気通路シャフトへと暖めながら導かれ、フロントドアの内側上部からエアーカーテンとなって炉内に進入します。火力調整レバーに連動した空気調整エアバルブが空気量を増減させます。この空気がガラスの汚れを防ぎながら、一次空気として供給されます。

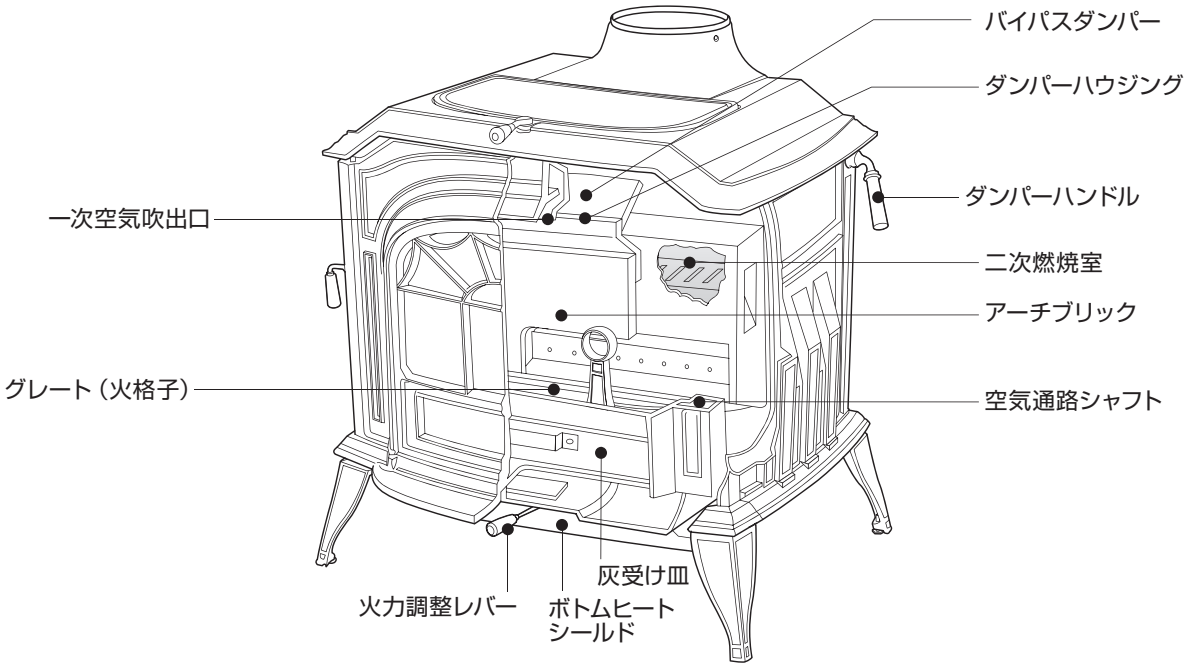
2 バイパスダンパー

ストーブの右側にあるバイパスダンパーハンドルでバイパスダンパーを操作して、燃焼室内の排気経路の切り替えをおこない、二次燃焼室を起動／停止させます。着火時や薪の追加時には、バイパスダンパーを開き、垂直燃焼モードにします。バイパスダンパーを閉めることにより水平燃焼モードに切り替わり、煙はセラミックファイバー製二次燃焼室を通過する際に二次燃焼します。(P20「2つの燃焼モード」参照)。薪の使用量を抑え、少ない薪から最大のエネルギーを引き出します。

3 二次空気

レゾリュート・アクレイムは一次燃焼した燃料から放出される煙をアーチブリックの開口より取り入れ二次燃焼室で再燃焼させます。二次空気は、本体背面下部より給気された後、二次燃焼室内に導かれます。空気量は燃焼の強弱によって必要に応じて供給されます。

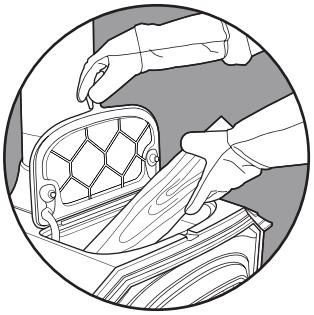
注意　煙突のドラフトが強すぎる場合、燃焼が大きくなることがあります。その場合には「煙突ダンパー」の調節で制御が可能です。設置は専門業者にご相談ください。



レゾリュート・アクレイムの機能と特長

●トップドア（クッキンググリドル）

開閉式のクッキンググリドルから楽な姿勢で安全に薪の補充ができます。このクッキンググリドルで料理をすることができます。



●セラミックファイバーの二次燃焼室

耐火性、蓄熱性、耐久性に優れたセラミックファイバーの二次燃焼室を採用。煙に含まれるクレオソートやスス等の副生成物を再燃焼。クリーンな排気を達成します。

●堅牢な耐火ブリックの炉

炉室内には 4 枚から構成された耐火ブリックがあり、鋳物を保護します。交換も簡単にできます。

●エアウォッシュ機能

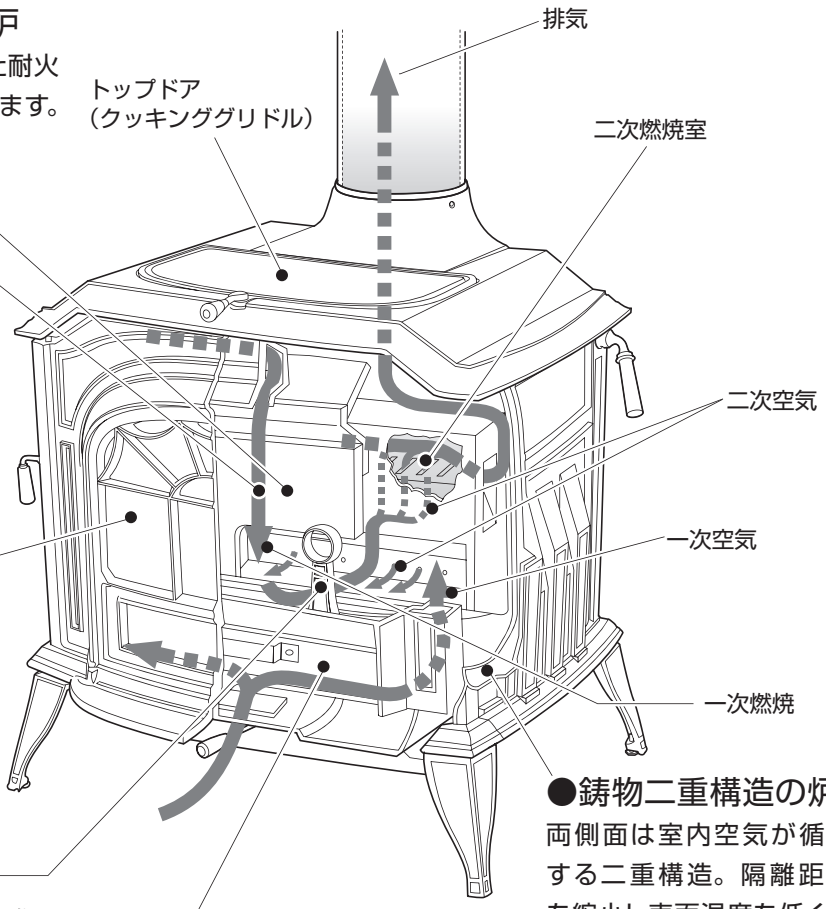
一次空気は、ドアガラスの内側の表面を流れ、燃焼室に供給されるため、ガラスにススが付きにくくなります。

●コーティングガラス

赤外線反射コーティングを施されたガラスパネルを使用することにより、内側のガラス表面を高温に保ち、ガラスが汚れるのを防ぎます。

●アンダイアン

燃焼中、フロントドアを開ける際に薪がこぼれ落ちてくるのを防ぎます。また、ドアガラスの保護、燃焼空気の対流層を確保する役目も担っております。



●鋳物二重構造の炉

両側面は室内空気が循環する二重構造。隔離距離を縮小し表面温度を低くおさえる効果があります。

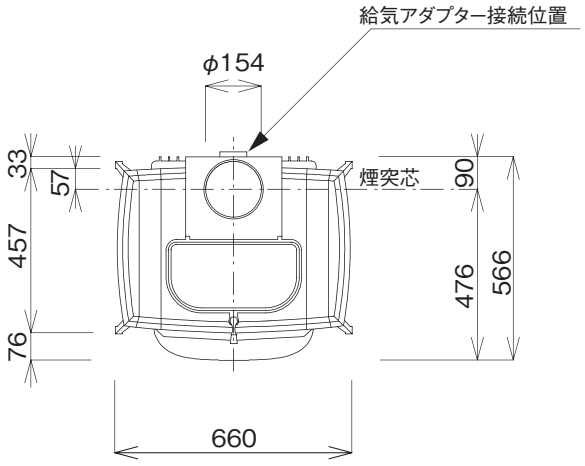
●灰受け皿

灰はグレート（火格子）のすきまから灰受け皿に落とすことができるので、かき出す手間がかかりません。さらに、たまった灰は灰受け皿ごと取り出し、手や床を汚すことなく簡単に処理できます。

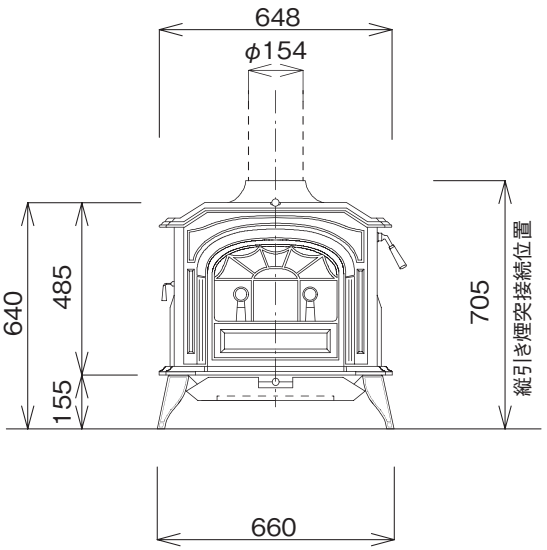
本体及び煙突設置基準

3 本体寸法図／仕様／設置基準

単位：mm

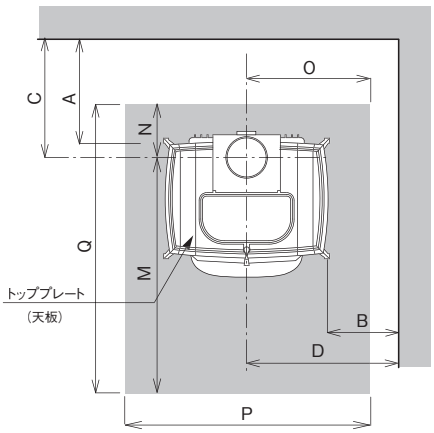


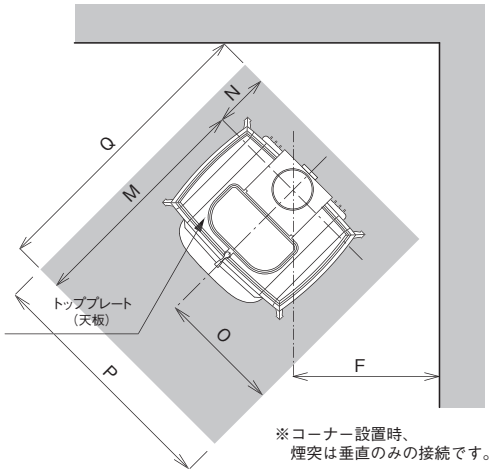
平面図



立面図

●本体離隔距離





※コーナー設置時、
煙突は垂直のみの接続です。

建築基準法施行令の内装制限により、壁、天井を木材等の可燃下地材に準不燃材の仕上げを施した場合、および平屋、最上階など内装制限の規制を受けず、壁の仕上げが木材等の可燃材である場合は下表に示された数値以上の離隔距離を設けてください。仕上げと下地が不燃材料の場合は除外されます。

（単位：mm）

	煙突垂直接続		
壁仕上	C	D	F
遮熱板なし	667	705	631
遮熱板なし＋リアヒートシールド＋煙突シールド	438	705	631
遮熱板あり	388	528	454
遮熱板あり＋リアヒートシールド＋煙突シールド	286	528	454

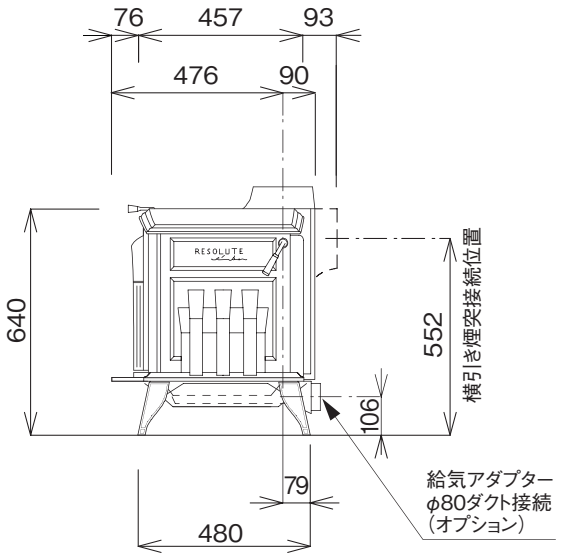
	煙突水平接続	
壁仕上	A	B
遮熱板なし	254	381
遮熱板あり＋リアヒートシールド	178	204

内装制限緩和の告示 225 号に従い、壁、天井を難燃材等（木材含む）の仕上げを施した場合は、下表に示された数値以上の離隔距離を設けてください。仕上げと下地が特定不燃材料の場合は除外されます。

（単位：mm）

	煙突垂直接続		
壁仕上	C	D	F
遮熱板なし	973	1158	1133
遮熱板あり	390	624	550

○壁仕上げなど詳細は建築基準法、同施行令に従ってください。
　告示 225 号に従って設置する場合前方離隔 1332mm、上方離隔 1230mm。
○遮熱板とは 25㎜以上の空気層のある特定不燃材壁。
○煙突垂直接続でリアヒートシールド設置時はシールドインサートも装着してください。
○煙突シールドは本体接続部（フルーカラー）より 712㎜まで、それより上の遮熱された壁まで 204mm、遮熱されていない壁まで 356mm 以上。



側面図

仕 様

◇ストーブ重量：193kg
◇燃料容量 13.6kg
◇最大薪長さ 40cm
◇最大出力 10,000kcal/hr（11.6Kw/hr）
◇最大暖房面積 148m²（46 坪）
◇燃焼効率 75%
◇ EPA 廃棄物量 3.4g/ h r
◇接続煙突径φ 150mm
◇灰受け引き出し
◇手動式温度調節機能
◇水平燃焼システム
◇ガラス・エアウォッシュシステム
◇耐熱セラミックガラス
◇トップドア（クッキンググリドル）
◇仕上：黒耐熱塗装、またはホウロウ
※給気アダプターはオプションです。

●床：炉台（ステージ）の寸法

本体重量に耐えられる不燃材を敷いてください。不燃材は熱抵抗値 R が、0.105m²K/W 以上になる厚みが必要です。目地にはモルタルをつめてください。

（単位：mm）

前面 M	後方 N	側面 O	幅 P	奥行きQ
858 以上	294 以上	528 以上	1056 以上	1152 以上

●煙突基準

● 3 メートル基準

煙突は、屋根を貫通する部分から 90 センチメートル以上高くし、さらに水平に測った周囲 3 メートル以内の障害物よりも 60 センチメートル以上高くしてください。

●煙突の高さはストーブトップから最低 5 メートルです。

●お住まいの地区の標高によっては、煙突をより高く立ち上げなければならなくなります。

●室内に使用する一重（シングル）煙突は本体より最長 2.4 メートルまでで、それより上部及び隠蔽部や屋外は二重断熱煙突を使います。一重（シングル）煙突では天井や壁を貫通させないでください。

●二重断熱煙突は煙突火災に対応した熱衝撃テストに合格した認定品(例:UL.BS)をご使用ください。

●煙突離隔距離

（単位：mm）

		壁		天井
		遮熱板なし	遮蔽板あり	
室内一重煙突	シールド無	585	305	585
	シールド付	356	204	
断熱二重煙突（断熱層も含む）		150	150	ー

○断熱二重煙突の離隔距離は内側煙突からの寸法。
○遮熱板とは 25㎜以上の空気層のある不燃材壁。
○最低煙突高さはフルーカラーより 5 m。

●煙突の水平に延ばす距離はできるだけ短くし、最長でも1メートル以内にしてください。

● 90°の曲がり部分は、2 ヶ所までにしてください。

重要⚠

設置基準に従わない場合、煙突火災や住宅火災など、危険な状況を引き起こす場合があります。説明書の全ての内容に的確に従い、家屋及び人身をおびやかす結果となる一時しのぎの妥協は決して行わないでください。

煙突は建築物に対して十分な支持をし堅固に固定されていなければなりません。ストーブ本体は平らで水平な不燃床の上にガタつきがない状態で設置してください。地震の際に転倒、倒壊しない様、安全を確認してください。

薪について

使用する薪の条件

切られてすぐの生木は、その 50%が水分です。その木を薪として燃やすには水分を 20%前後まで乾燥させることが大切になります。薪は割られることにより空気に触れる表面積が大きくなるのでより早く乾燥させることができます。割った薪は少なくても 12 ～ 18 ヶ月は乾燥させてください。薪の太さや樹種にもよりますが、冬に切って 2 年間乾燥させた薪が理想の薪といえます。

薪は針葉樹系の軟木と広葉樹系の堅木とに分けることができます。軟木は乾燥しやすく着火力に優れていますが、火持ちがよくありません。堅木は、その逆の性質をもっています。十分に乾燥していても、なおズッシリと重い薪が質量に富み、暖房用には優れた薪といえます。

堅木		軟木	
火持ちがよく 暖める力が大きい		火持ちはよくないが すぐに火力がでる	
·ミズナラ	·ニレ	針葉樹	広葉樹
·コナラ	·カキ	·カラマツ	·シラカバ
·クヌギ	·クスノキ	·アカマツ	·ポプラ等
·アカシア	·サクラ等	·スギ	
·ブナ		·ヒノキ等	

●薪を入手するためのヒント

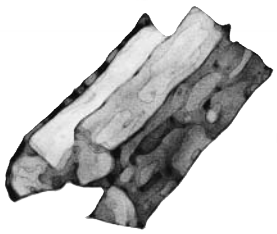
・地元の森林組合、または営林署に問い合わせて購入する。
・薪業者（燃料屋）から購入する。
・チップ工場に問い合わせるか、原木を納入している業者に卸してもらう。
・果樹園で剪定した木を譲ってもらう。
・山林地主と知り合いになり、間伐材を譲ってもらう。
・地元の役場に問い合わせて、公園の木や街路樹の剪定枝を払い下げてもらう。
・近所で家の新築工事があったら、大工さんにかけあって端材を譲ってもらう。

使用する薪の種類

温度や燃焼時間を調節するために、大きく分けて「焚き付け用」「中ぐらい」「長時間用」の 3 種類の薪を用意します。たき火の火をおこす時のように細い薪や枯れ枝に着火し、徐々に太い薪をくべていきます。薪を使い分けることで、薪ストーブの温度や燃焼時間を調節しやすくなります。

ポイント レゾリュート・アクレイムに入る薪の長さは 40cm 以内です。

焚き付け用の細い薪
（直径約 2cm 前後）



中くらいの薪
（直径約 5cm 前後）

長い時間燃やすための
太い薪
（直径約 10cm 以上）

危険

乾燥していない薪は、薪ストーブの性能を十分に引き出すことができません。暖まりにくく、燃やすとクレオソートやススが多く発生し煙突内に付着するので、煙突掃除をこまめにしなければ「煙道火災」の原因にもなりかねません。また腐ったり、化学処理をされた木は薪ストーブ及び煙突をいためますので使用しないでください。ドアガラスの汚れの原因にもなります。

薪作りのための斧と薪割り

●手斧
片手用の小型斧。焚き付け用に薪を細く
割ったり、細枝を切ったりするのに便利。

●薪割り鎚（づち）
斧頭が鎚を兼用する薪割り。
割れにくいときは、
この斧頭で楔を打ち込んで割ります。

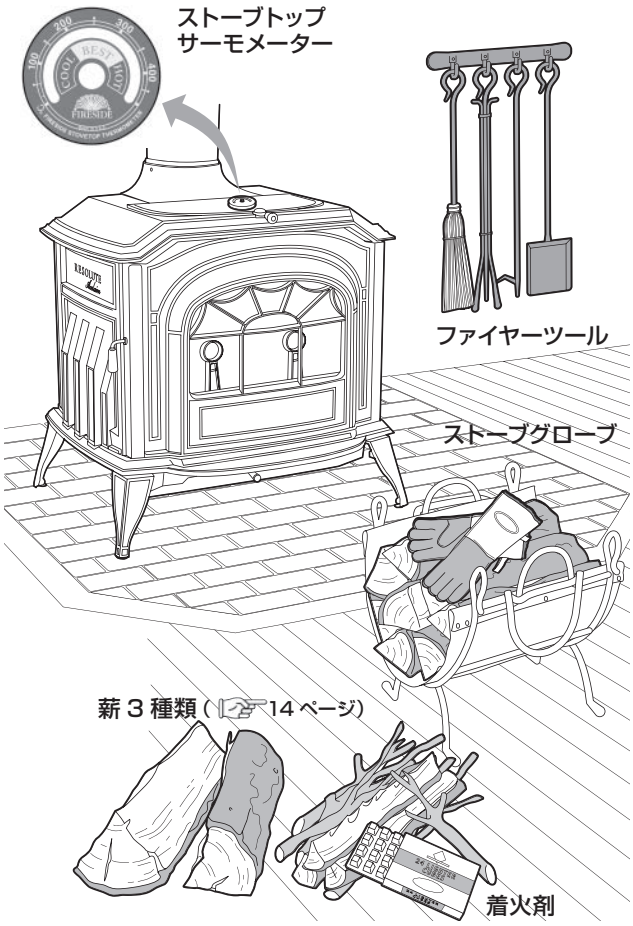
●小型薪割り
両手、片手兼用の薪割り。
小径木の玉割り材を割るときに。

●薪割り楔（くさび）
薪割りでは割りにくい薪を
割るための鋼鉄製の楔。
2 枚の楔があれば、ほとんどの薪を
割ることができます。

●大型薪割り
両手用の本格的な薪割り。

薪の着火と燃焼維持

5 着火の前に用意するもの



●ストーブトップサーモメーター

ストーブの状態を知るのに欠かせないツールです。燃焼モードの切り替え時期や火力調整操作のタイミングの目安になります。
過燃焼の危険な状態が一目で分かります。

●ファイヤーツール

火かき棒／炉の中の薪の位置を変えたい時に。
スコップ／灰をすくう時に重宝します。
ほうき／ストーブまわりのお掃除に。
灰かき棒／炉の中の灰を灰受けに落とします。

●ストーブグローブ

熱に強い革素材の物が適しています。薪をくべる時やハンドル、レバーをつかむ時に熱さから手を保護してくれます。

●薪3種類

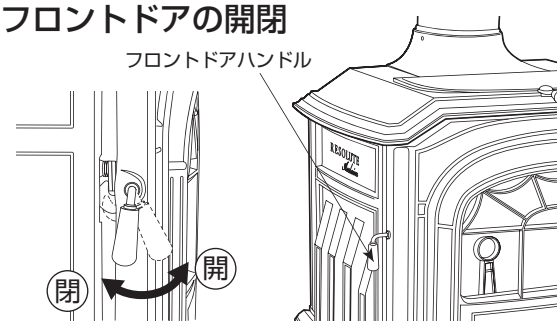
細い薪／焚き付け用　太さ 2cm
中くらいの薪／立ち上げ用　太さ5cm 前後
太い薪／長い時間用　太さ10cm 以上

●着火剤

着火剤（パラフィン）

各操作レバー

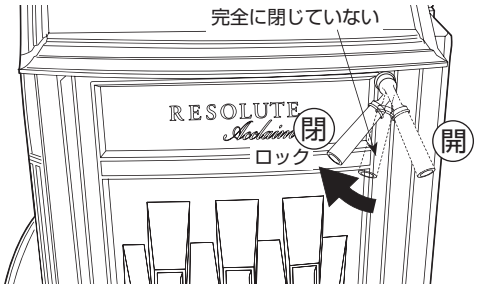
フロントドアの開閉



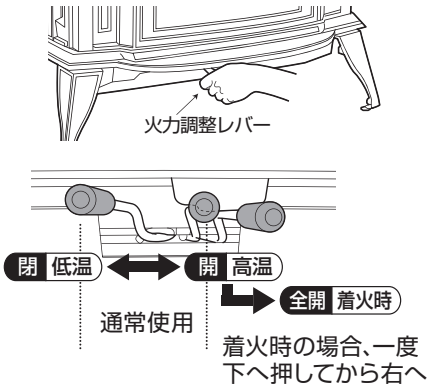
開く：ドアハンドルを手前に引きます。
閉じる：ドアを“カッチ”と音がしてドアフックがラッチ金具にかかるまで押します。ドアが完全に閉まっていることを確認してください。

バイパスダンパーの開閉

ハンドルの操作は、二段階になっています。閉めるときは、ハンドルを手前に「ガチッ」という手ごたえがあるまで動かします。開けるときは、逆に後方に押してください。

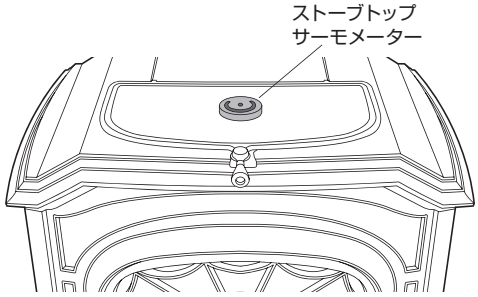


火力調整レバーの開閉



慣らし炊き

ストーブを本格的に焚く前には、必ず「慣らし焚き」を行ってください。
新しいストーブを、一気に高温で焚くと、鋳物同士のひずみや破損の恐れがあります。ストーブトップ・サーモメーターが 260℃以下の状態で３～４回にわけて焚き、温度の上昇と冷却を繰り返すことにより、鋳物の接合部を馴染ませることができます。この慣らし焚きを行うことにより耐久性が向上します。



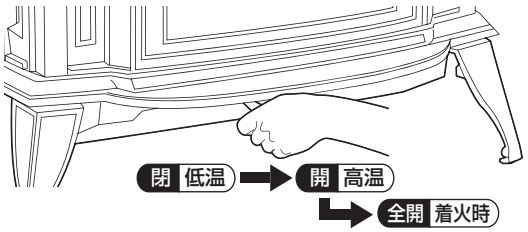
運転に必要な温度情報（ダンパー開閉のタイミングや焚きすぎの目安）を得る場合、温度計は必ずクッキンググリドルの中央付近に置いてください。例としては、クッキンググリドルとフルーカラーの間に置かれていることがありますが、この位置ですと、50℃～ 100℃温度が低くなり、運転に必要な情報が得られません。特にストーブトップで調理する場合、以上の点をご留意ください。（イラスト参照）

1 バイパスダンパーハンドルを後方に押しダンパーを開けます。

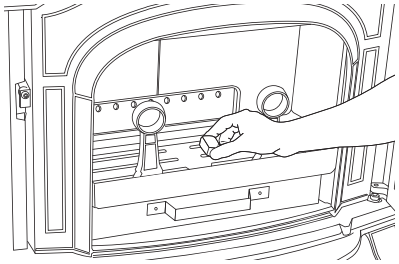
ポイント「慣らし焚き」の間は、バイパスダンパーを開けたままにしておきます。

注意 燃焼をはじめる前に部屋の外気取り入れ用の給気口を必ず開けてください。室内に煙がもれることがあります。

2 火力調整レバーを中央まで動かし、止まったところで下に押し下げながら右にいっぱいまで動かし全開（着火時の位置）にします。



3 ハンドルを引いてフロント・ドアを開け、着火剤１～２個を入れます。

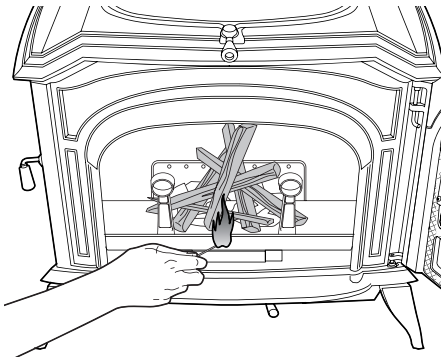


4 着火剤の上に４～５本の「焚き付け用の薪」をのせます。

5 隙間を空けながらさらに２～３本の「中くらいの薪」を組みます。

ポイント 前方より流れる一次空気の通りが良くなるように隙間をあけて薪を配置してください。

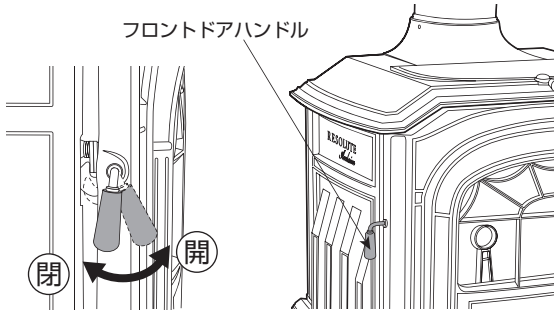
6 着火剤に点火してください。薪に着火したことを確認したらフロントドアを閉めます。



薪の着火と燃焼維持

5 慣らし炊き

フロントドアがラッチ金具に収まるまで押します。ハンドルを軽く押してドアが確実に閉まっていることを確認してください。



ポイント 慣らし焚きの場合は、これ以上薪を入れるのをやめ、ストーブトップ・サーモメーターが 260℃以上にならないよう火力調整レバーで空気を調節します。そのまま薪が燃えつきるまで放置して、火が消えてから 30 分程冷まします。着火からここまでを 3 ～ 4 回繰り返します。

注意 この時、ストーブや室内煙突の錆び止め油や塗料が加熱されて、においと煙が発生します。使用を始めてからの数回は窓を開けるなど、お部屋の空気を十分に換気してください。

注意 火力調整レバーを着火位置全開にして燃焼を続けていると、ストーブに破損を生じることがあります。火が安定したら，火力調整レバーを左の方向に動かし、火力を小さくしてください。

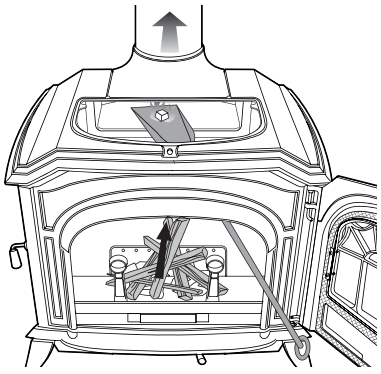
注意 薪を投入する時は、勢いよく入れないでください。ブリックが破損することがあります。

うまくつかない、燃えない、逆流する!?

煙突が冷えていると、ドラフト（上昇気流）が弱く、うまく着火しない、燃えない、逆流するなどの問題が起こる場合があります。このような場合は、バイパスダンパー付近に火をかざし煙突をよく暖め、ドラフトを発生させる手助けをします。慣らし焚きの手順 5 の段階で下の手順で煙突を暖めてください。

1 ファイヤーツールのシャベル等の上で着火剤を燃やします。
2 クッキンググリドルを閉めフロントドアを開けた状態で、ダンパー付近に着火剤の火をかざし、煙突をよく暖めます。
3 ドラフトが発生したら着火方法 6 に従い、薪の着火を始めます。

ポイント ドラフトが発生すると着火剤の火が煙突方向に引き寄せられます。煙突が吸引を始めるまで必要に応じてくり返し行います。その間は薪に着火しないでください。

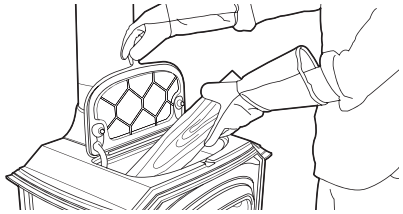


焚き方

「慣らし焚き」の 1 ～ 6 の手順で着火を行います。

注意 着火の前に『二次燃焼室の空気孔』の灰をブラシなどで取り除いてください。堅い棒などは破損の可能性があります。

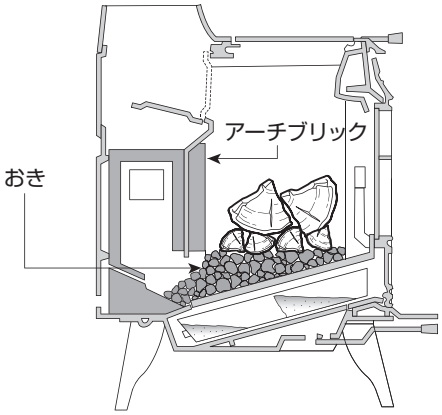
7 薪全体に火が行きわたり、勢いよく燃えてきたらクッキンググリドルを開け、上から中～太い薪を数本足します。



ポイント 薪を足した後は、グレート（火格子）の上におきがたまるまで、十分に火を燃やします。

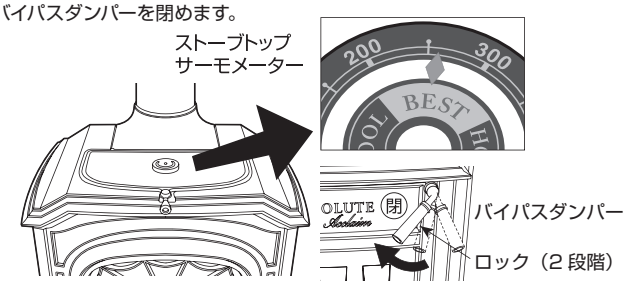
注意 クッキンググリドルを開けている時には必ず手で押さえてください。手をはなしますとクッキンググリドルが閉まることがあり、破損やおもわぬケガをする恐れがあります。

8 真っ赤なおき床が火床全体にできるまで薪を足し続けてください。
おきがグレートの後部では厚さ約 10 センチ、前部で2～3センチ程度必要です。アーチブリック中央の二次燃焼室への開口をおおうくらいまで必要です。グリドルの温度が 260℃以上になったらダンパーを閉じてください。

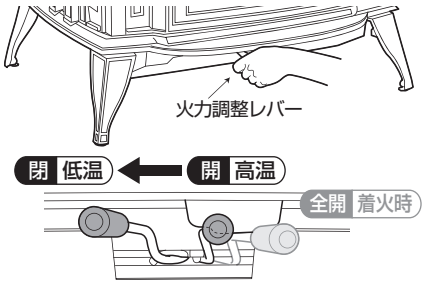


ポイント 薪の種類、また含んでいる水分量でも異なりますが、効率的な燃焼に必要なおき床を維持するには数時間を要します。

260℃以上になったら
バイパスダンパーを閉めます。



9 おき床ができたら、ストーブを高能率的な操作に導くために、下の方は細い薪、上の方は太い薪になるようにくべます。ダンパーを閉じ、火力調節レバーを“高温”の位置にし、ストーブを 15 ～ 20 分燃焼させます。この高温調節は、新しく投入された燃料を完全に点火するためです。投入された薪が勢いよく燃えはじめたらお好みの出熱量になるよう火力調節レバーを調整します。



ポイント ストーブトップサーモメーターの温度が 350℃以上にならないように必要に応じて火力を調節してください。ストーブが部分的に赤熱している時は過剰燃焼です。火力調整レバーで給気量を減らし燃焼出力を下げてください。

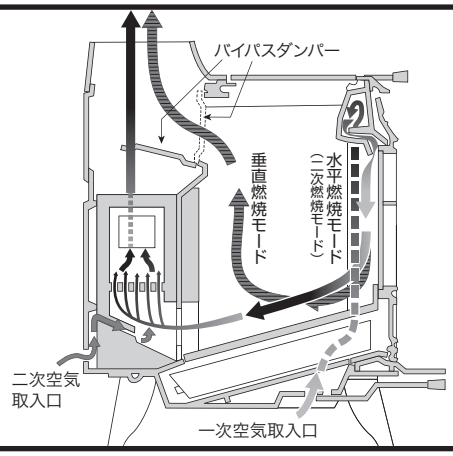
注意 350℃以上で継続して使用するとストーブ本体の破損の原因となります。一時的に 350℃を越えるのは問題ありません。

注意 バイパスダンパーを閉めたままフロントドアを開けないでください。

注意 バイパスダンパーは完全に開けておくか、完全に閉めておきます。中間位置はありません。バイパスダンパーを閉める際は、ハンドルがロックするまでしっかりと回転させてください。

薪の着火と燃焼維持

5 焚き方



2つの燃焼モード

垂直燃焼モード

着火・薪の補充の燃焼の立ち上げ時にバイパスダンパーを開けて燃焼させるモードです。煙はバイパスダンパーを通り煙突に導かれます。薪は全体に燃えます。

水平燃焼モード

ストーブが 260℃以上になってからバイパスダンパーを閉めることにより、煙が本体背面の 2 次燃焼室に導かれ再燃焼します。薪は下の方から徐々に燃えます。

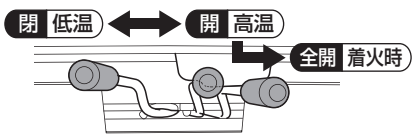
●ストーブトップサーモメーターの温度について

サーモメーターを観察することによって、ストーブの燃焼状態を良く理解する事ができます。熱出力の一般的な指標として、以下の温度範囲を参考にしてください。表面温度はいつエアーを調節して、燃料を再投入するか知らせてくれます。

260℃以上 ストーブ温度は二次燃焼室内での燃焼を開始する温度に達し、バイパスダンパーを閉める温度です。

175℃以下 火力が弱いです。火力調整レバーで燃焼出力を上げるか、ストーブに薪を補給する温度です。

350℃以上 過剰燃焼です。火力調整レバーで給気量を減らし燃焼出力を下げてください。



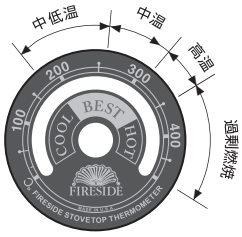
火力調整レバー

注意 火力調整レバーを閉じる方向（左）にしても火力が下がらない場合には点検が必要です。販売店にご相談ください。

注意 ストーブトップの温度で 350℃を超えて継続して燃焼させていると、鋳物部品やホウロウ仕上げにダメージを及ぼす事がありますのでご注意ください。

ポイント 正常な運転温度は 200 ～ 350℃の間です。ストーブトップサーモメーターがこの範囲を示す様に火力調整レバーを操作してください。

温度目安
175 ～ 260℃ 中低温
260 ～ 315℃ 中温
315 ～ 350℃ 高温



ストーブトップ
サーモメーター

お客様のストーブ設置状態により、火力調整レバーの位置と温度の関係は異なります。「薪の質」や「煙突のドラフト（上昇気流）の状態」などにも左右されます。ドラフトは煙突の長さ、種類、設置状況、地形、付近の障害物など様々な要因に影響されます。ストーブを初めて使う際は、火力調整レバーの記録を取ることをお薦めします。特定の設定で一定の熱量を得る方法が分かります。1 ～ 2 週間ほどで、個々の設定から得られる熱量と燃焼時間を判断できます。

煙突ダンパー設置

状況（煙突・薪・気温など）によって、ドラフトが強すぎる場合があります。煙突ダンパーはドラフトを適正に制御することが可能です。販売店にお問い合わせください。（23ページ参照）

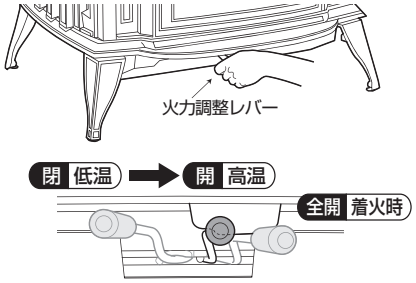
薪の補充

ポイント 薪の補充はストーブがまだ熱く、再点火がすばやくなされるための十分なおき床がある間に行ってください。

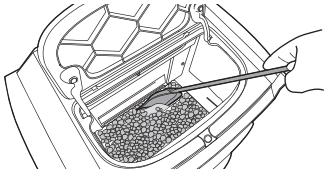
1 バイパスダンパーハンドルを後方に押しダンパーを開きます。

注意 バイパスダンパーを開けないと煙が逆流します。

2 火力調整レバーを“高温”の位置まで動かします。

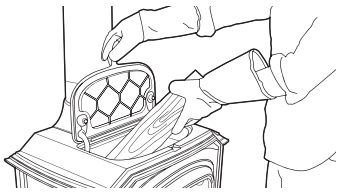


3 トップグリドルを開き、グレート（火格子）上、特に奥部分に溜まっている灰を灰受け皿に落とします。おきをアーチブリック中央の二次燃焼室の開口を覆うくらいに移動させます。



注意 二次燃焼室開口部分を堅いツールで突くと破損します。

4 薪をくべます。細い薪からくべることによって立ち上がりが早くなります。

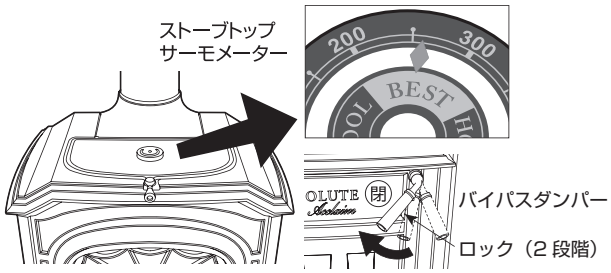


注意 薪を投入する時は、勢いよく入れないでください。ブリックが破損することがあります。

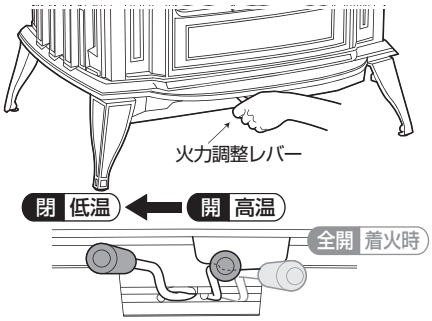
注意 おき床が炎を再度活発に燃焼させる事が出来ない程燃え尽きてしまった場合は、再度炎が立ち上がるまでレバーを“着火”の位置にセットしてください。

注意 ストーブ内に薪を一杯に詰めないでください。アンダイアンより薪が上になるとガラスに当たって汚れや破損の原因になります。

5 ストーブが燃焼の勢いを取り戻して（これには15～20分かかります。）グリドル上の温度が260℃以上になったらダンパーを閉じます。



6 お好みの位置に火力調整レバーを動かします。



ポイント 長時間燃焼させるための薪の組み方
炉内におきが十分できるまでは、勢いよく燃えるように薪の間に空気が通るように組みます。おきができて炉内が熱くなったら、薪と薪をつけて重ねてくべます。薪を燃えにくい様に組む事によって効率よく長時間燃焼させることができます。

薪の着火と燃焼維持

5 薪の補充

灰の除去

傾斜したグレート（火格子）は二次燃焼室への入り口付近におきが多く貯まり高温が維持されるための設計です。おきが多量に蓄積されていることによって活発な二次燃焼が行われます。この付近に灰が大量に貯まってくるとおきの量が減り温度が上がらずに効率の悪い燃焼になってしまいます。6～8時間毎、または薪を追加するときに、おきと灰を灰かき棒やシャベルで手前にかき出すことによって灰がグレート（火格子）の隙間から下の灰受け皿に落ちます。灰が除去できましたら、おきを奥のアーチブリックの開口を覆うように移動させてください。

注意 絶対に道具で二次燃焼室に衝撃を与えないでください。耐火性部分にダメージを与える恐れがあります。

消火

薪ストーブは、ガスストーブや石油ストーブのように瞬時に消火することはできません。薪が燃えつきた時が消火を意味します。
薪ストーブを消火する時は薪をくべるのをやめ、二次燃焼モードにし（ダンパーを閉じ）火力調整レバーを閉めます。燃焼空気の供給が少なくなり、火の勢いが徐々に落ち、ゆっくりと燃えつきます。

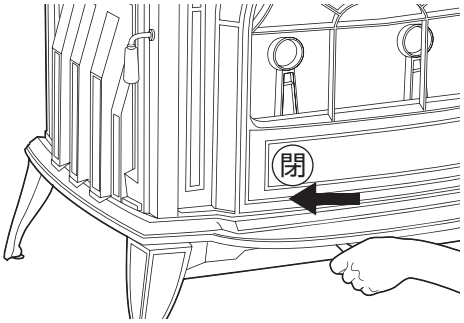
注意 まだ燃えている薪が残っていて火力が強いうちに空気を絞りすぎるとバックパフを起こすことがあります。それを防ぐには、バックパフが起こらないところまで火力調整レバーで空気を増やしてください。

注意 ストーブ本体や炉室内に水をかけて消火するのは非常に危険です。また、このような急激冷却による消火はストーブ本体に重大な損傷をもたらします。

注意 燃焼空気の供給は完全に遮断されません。燃焼空気を遮断して消火する事は出来ません。燃えつきるには時間がかかります。

1 バイパスダンパーハンドルを手前に引きバイパスダンパーを閉じます。

2 火力調整レバーを左方向にし閉めます。

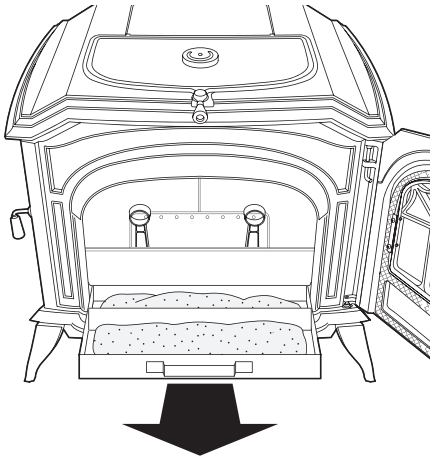


灰の処理

定期的に灰の除去をおこなうことは、ストーブの耐久性にも重要な作業です。灰受け皿の縁まで溜まる前に以下の手順に従って処理してください。グレート（火格子）の灰をスコップや灰かき棒でかき落とし、ストーブ内部の灰を取り除きます。

注意 危険ですから燃焼中は灰の処理を行わないでください。ストーブが完全に冷えた状態で行ってください。

1. フロントドアを開きます。
2. グレート（火格子）のすき間から、ツールで灰を落とします。
3. 灰受け皿を注意深く引き出します。灰をこぼさないよう、灰取バケツ等に移します。中のこぼれた灰もきれいに取り除きます。



注意 灰は火の気が完全に消えたことをご確認のうえ、不燃性の密閉できるフタの付いた灰取バケツに入れて、72時間以上おいてから冷えていることをご確認のうえ処理してください。また、灰取バケツは必ず厚さ 5cm 以上の金属以外の不燃材の上に置いてください。可燃材の上に置くとバケツ底面の熱が伝わり、火災の原因となります。

エアコントロールについて

設置方法がストーブ性能にどのように影響するかについては、26 ページの「ドラフト管理」をご覧ください。ドラフトが過剰だと、ストーブ内が高温になり、燃焼室が破損する恐れがあります。一方、ドラフトが不十分だと部屋の中への煙の逆流（バックパフィング）が起きたり、煙突や燃焼室が「詰まる」恐れがあります。

ドラフトが過剰な場合の兆候としては、火力調整レバーで制御不可能な燃焼や、ストーブの一部が赤熱することが挙げられます。また、弱いドラフトの兆候としては、ストーブや室内煙突接合部からの煙の漏れ、弱火、ガラスの汚れなどが挙げられます。
断熱性能の高い住宅の場合、住宅内でストーブが十分な空気を得られず、ドラフトが弱まることがあります。その場合、住宅の風上側にあるストーブ付近の窓を開けることで、必要となる空気を取り入れるができます。またオプションの給気アダプターを使い、空気を戸外から直接ストーブに引き込むこともできます。

煙突ダンパー設置
状況（煙突・薪・気候）によって、ドラフトが強すぎる場合には煙突ダンパーを設置してドラフトを適正に制御することが可能です。
ドラフトの弱い煙突や機密の高い住宅、ストーブと同一の部屋に換気扇が設置してある場合など室内の気圧がマイナスになる状況では煙突ダンパーの設置は必要ありません。場合によっては排気が室内に流出し危険をともなう事があります。販売店にお問い合わせください。

Memo

Memo

ドラフト管理

6

ストーブは使用者、煙突、燃料、そして住宅などから構成されるシステムの一部です。
システムのあらゆる部分がストーブの作動状態を左右します。これらの要素がうまく調和して初めて全体のシステムが適切に機能します。

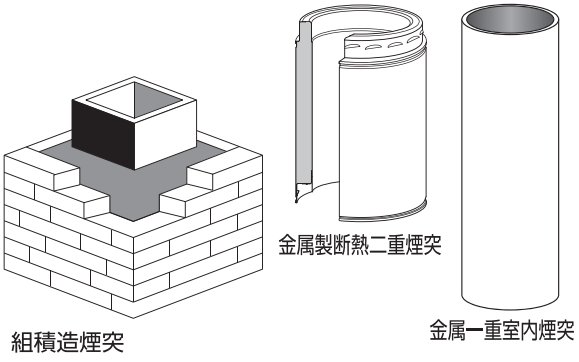
暖炉・薪ストーブの機能は自然のドラフト（上昇気流）で決まります。ドラフトは煙突のトップの外気温より、煙の温度が高い場合に生じます。その温度差が大きいほど、ドラフト作用も大きくなります。煙突内を煙が上昇するにつれて、燃焼用の空気をストーブに引き込む吸引力が生じます。

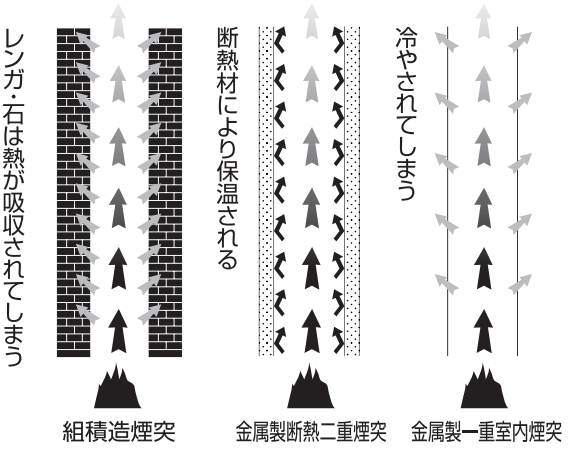
ストーブの給気口を全開にした状態にもかかわらず、燃焼速度が遅い場合はドラフトが弱い証拠です。給気口を開くことによって火が活発化する場合は、ドラフトが適切であることを意味します。ドラフトが弱い場合、給気口を開いてもストーブ内に空気を取り入れることが出来ず、火の調節は出来ません。

煙突の種類、煙突径や設置場所・外気温などによって、煙突は早く温まる場合もありますし、正常なドラフトが得られる温度に達するまで時間がかかる場合もあります。ストーブ内に入る空気量を制限する「気密性の高い」ストーブを正常に機能させるためには、煙突が煙を適切に保温する必要があります。煙突の種類によってこの効果は異なります。以下に特徴とその効果を挙げます。

●組積造煙突（石・レンガ等）

組積造煙突は欧米で長い間使われてきた煙突ですが、気密性の高い薪ストーブに使った場合、効果はあまり期待できません。石やレンガは性質上、大量の熱を吸収します。そのため、中を通る煙は冷却されるので、ドラフトを減少させてしまいます。このことは金属一重（シングル）煙突にもいえます。
煙突は大きいほど、温まるのに時間がかかります。
戸外に設置された組積造煙突、特に大きめの物は、温めるのが非常に困難で、適切なドラフトを得られるだけの温度を維持することは困難です。





●金属煙突

工場生産された金属煙突の多くは、内側煙道に断熱材の層があり、この断熱材が煙を保温します。また、この断熱材は石やレンガより密度が低いので、金属煙突は組積造煙突より早く温まります。金属煙突は石やレンガより外観が劣りますが、効果はより優れています。現在は木造にて金属煙突に囲いを作り、表面にレンガタイルを張る等して、外観を組積造煙突風に仕上げる場合もあります。これも保温効果としては有効です。

●屋内／屋外の設置

煙突は煙を保温する必要があるため、できるだけ屋内を立ち上げるのが有効です。この方法は、住宅自体が煙突の断熱材の役割を果たし、屋外に熱を失うことがないため、より少ない熱量で煙突を温め、また保温することができます。

●煙突の高さ

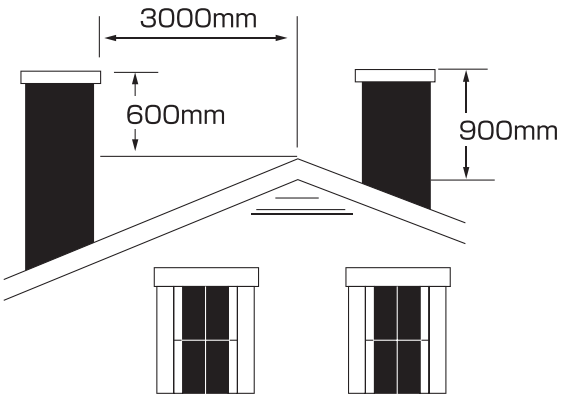
煙突の高さは「600mm、900mm、3m 煙突基準」の安全条件を十分満たしていれば、有効なドラフトが得られると考えられています。この基準はドラフトばかりではなく煙突火災時の煙突周り延焼防止になります。煙突の高さは高い方がより良いドラフトを生むと考えがちですが、基準以上に高さを加えることはドラフト問題の正しい解決策ではありません。実際、問題を悪化させることもあります。高い先の方の煙突が冷えてしまうからです。安全基準を満たす必要がある場合や、ドラフトへのマイナス要因を回避する場合を除いて、煙突の高さは（最低 5m）必要以上に伸ばさない方が良いでしょう。

●煙突径

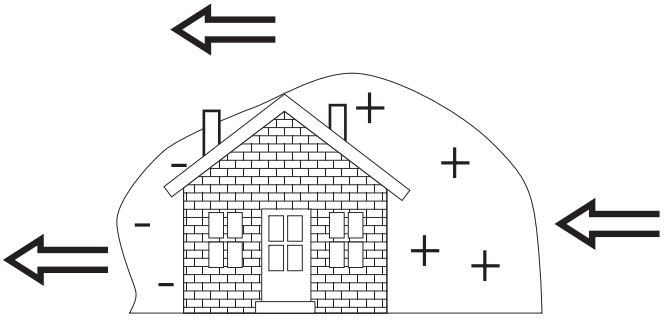
煙突の内側寸法は、ストーブの排気口寸法と一致しなければなりません。煙突が気密性のあるストーブに接続される場合、大きめの寸法は好ましくありません。それどころか、不利になる場合があります。煙は膨張により熱を失います。内径 150mm の煙突を付けたストーブを 250 × 250mm の煙道につなげると、ガスは本来の規模より 3 倍膨張します。この場合、煙が冷却され、ドラフトは弱まります。

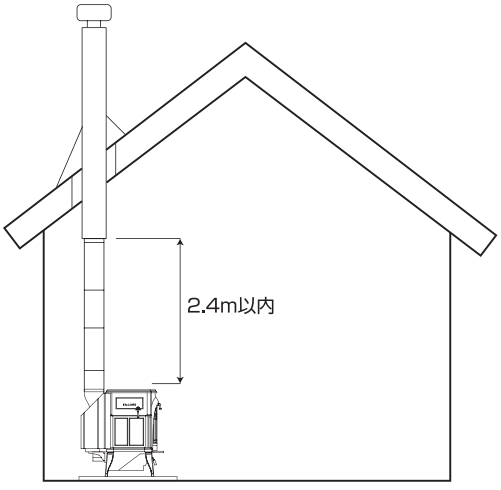
●煙突のレイアウト

煙は煙突のトップまで上昇する過程で、曲がりがあるたびに速度が落ちます。理想的な煙突のレイアウトはストーブから垂直に真直ぐ伸ばす方法です。
室内煙突（シングル煙突）を使用する推奨長さはフルーカラーから 2,400mm 以内とします。これより長いと煙が冷却されドラフトが弱まり、またクレオソートの問題が生じます。



3m煙突基準


※風がふくと建物のまわりは圧力の差ができます。
煙突はこの風圧帯により上まで立ち上げる必要があります。



ドラフト管理

6

●単一排気

ストーブにはそれぞれ専用の煙突が必要です。気密性のあるストーブが他の開放型の暖炉やストーブの煙突に接続されている場合、煙突のドラフトは気密性の高いストーブ以外の別の経路から空気を引き込むため、効果が落ちます。ホースに穴が開いた電気掃除機を仮定すると、この状況をよく理解することができます。場合によっては、煙が逆流する恐れもあります。

●クレオソート

クレオソートは薪（特に湿った）がゆっくり燃焼した時に生じます。クレオソートは煙の濃度が高い、または排気の速度が遅く、煙が 130℃以下に冷やされると、煙突内に蓄積する有機タールです。蓄積されたクレオソートは揮発性で、一定の温度以上に加熱されると煙突火災を発生させる恐れがあります。煙突のドラフトを左右する全ての要素は、クレオソートの蓄積にも影響します。従って、正しい煙突レイアウトと燃焼操作で適切なドラフトを促し、クレオソートの発生を最小限に抑えてください。

●燃料

最適な方法でストーブが設置されていても、燃料の質が悪いと効果が出ません。最適な燃料は、12 − 18 ヶ月間乾燥させた堅木です。軟木でもかまいませんが、堅木ほど火持ちが良くありません。

「乾燥させていない」薪は大量の水分を含んでいるため、熱量が薪に残る水分の除去に使われてしまいます。結果的に、暖房にまわる熱量が削減され、煙突内部の温度も上がらず、クレオソートの原因となります。薪用の水分計といったものもありますが、見た目や重量からも乾燥具合を判断することができます。乾燥させていない薪を 1 本持ち上げて重量を感じ取ります。乾燥した薪の重量は約 2/3 になります。この他、薪の切り口を観察します。乾燥するにつれて、収縮し、ひび割れが出てきます。ひびの入った薪ほど乾燥していることになります。

●バックパフィング（空気の逆流）

煙突のドラフトが炉内から燃焼ガスを引き出すより早い速度で、火が揮発性ガスを発生させた場合にバックパフィングが生じます。ガスは点火に十分な濃度と温度になるまで、炉内に待機します。ストーブがバックパフィングを起こした場合は、ダンパーを開けて煙を早く煙道へ送り、炉へ空気を入れ、大きな薪の使用を避けてください。火室の中の炎は常に鮮やかにゆらめいている状態に保ちます。煙が多く速度の遅い火は効率が悪く、煙突内にクレオソートを堆積させます。

●ドラフト試験

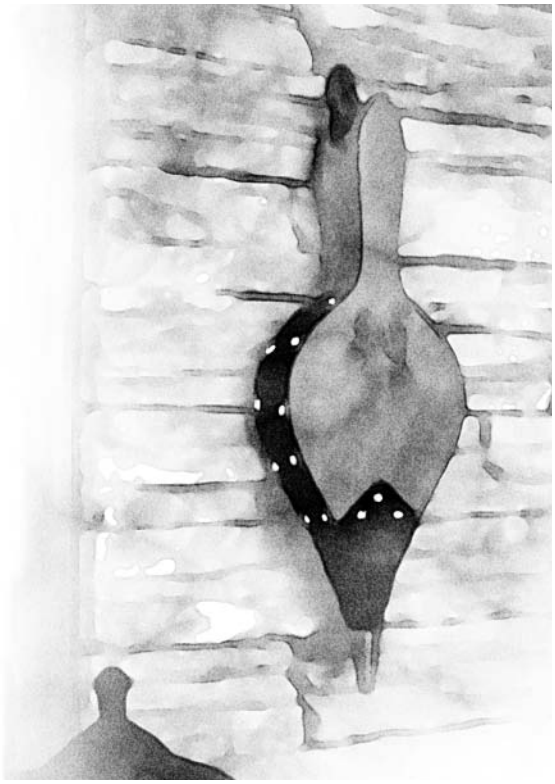
煙突ドラフトの簡単な試験方法は、ストーブのダンパーを閉め、気流が安定するまで数分待ってから、火力調整レバーを開け閉めして、火の強弱が調整できるかどうかを観察する方法です（火力調整レバーを操作してから、火の状態が変わるまで数分かかることもあります）。火が調節できない場合、ダンパーを閉めるタイミングが早く、まだドラフトが足りないのかもしれません。ダンパーをもうしばらく開けておき、ドラフトが強くなるまで待ちます。

燃焼状態の記録を取り、それぞれの燃焼状態とストーブ操作状態を関係付けていくと、お客様の設置状況に合った燃焼方法が見つかるでしょう。

●負圧

最適なドラフトはストーブへの給気量にも関係します。煙突は自然に得られる空気だけを引き込むことができます。住宅の気密性が高く、ストーブへの給気が妨げられる場合や、室内空気を屋外に排出する他の設備（特にレンジ・フード、衣類乾燥機・機械換気設備のような動力駆動設備）がストーブと空気を取り合う場合、ドラフトの障害になります。ストーブ以外のそうした設備の運転中に、ストーブが

十分な空気を取り込めるのであれば問題はありません。近くの窓やドアを開けないと煙突が十分な空気を取り込めないのであれば、外気取り入れ口を増設したり、ダクトをストーブに継ぎ、燃焼空気を直接引き入れる必要があります。



●ドラフト管理

ストーブで薪を燃やすということは「機械的な機能」というより「使用者の技術」です。ストーブと煙突が適切に設置されていれば、後は技術（操作のタイミング）を向上させればストーブのシステム全体の機能はより高くなります。システムを構成する要素によってそれぞれ違う、ストーブの特性にあった適切な技術を得るために、燃焼状態の記録を取り、それぞれの燃焼状態とストーブ操作を関連付けていくと、より満足の行く効果を得ることができるでしょう。

メンテナンス

7 メンテナンス・スケジュール

ストーブ及び煙突を永くお使いいただくためには定期的なメンテナンスが必要となります。
下記のスケジュールに従って、継続的なメンテナンスを行っていくことをお薦めします。
また、メンテナンス項目の中にはストーブ販売店に依頼する内容も含まれておりますのでストーブ販売店名が記入されている保証書を大切に保管してください。

日常メンテナンス

お客様が日常ご使用の中で必要に応じて行います。		
点検項目	要領	方法
①ドアガラス清掃	**スス・タールの除去／破損の有無**	P31 参照
②灰受け皿	溜まった灰の処理	P23 参照
③ハンドル	ネジの点検	各ネジを点検し、緩んでいる場合には、増し締めを行う。
④二次燃焼室入口の空気孔	空気孔を塞いでいる灰の除去	やわらかいブラシ等で清掃する。

シーズン前点検（使用状況によりシーズン中の点検や調整・交換修理が必要になります。）		
お客様自身もしくはストーブ販売店にご依頼の上、毎年使い始めに行います。		
点検項目	要領	方法
①煙突の掃除	**煙突内部のスス、タール除去**	P40 参照
②炉内部の掃除点検	**内部のスス、タールの除去** アーチブリック、サイドファイヤーブリック点検交換	P38～参照
③各部ファイバーロープ点検	はがれ・劣化等の点検	P33～35 参照
④フロントドア調整	密閉度・位置の点検	P36 参照
⑤バイパスダンパー調整	密閉度の点検	P37 参照
⑥二次燃焼室点検	**ススの除去／損傷・劣化等の点検**	P38～39 参照
⑦ドアガラス点検	**スス、タールの除去／損傷の有無**	P31・32 参照
⑧ストーブ表面塗装補修	サビ・塗装はがれの補修	P31 参照
⑨レッグ（脚）、 ヒートシールドの取付部	各ボルト、 スクリュービスの緩みチェック	各ボルト、スクリュービスの増し締め
⑩ヒートシールド内側の清掃	ほこりの除去	取付ビスを外して清掃

シーズンオフ
春　ストーブの炉内に灰を残しておくと、湿気が溜まり、錆やすくなるのでシーズンの終わりにすべて取り除く。
夏　バイパスダンパーと火力調整レバーを全開のままにして、煙突内の空気を常に対流させておく。
秋　上記シーズン前点検

5年点検（本体のフル・メンテナンス）	
ストーブ販売店にご依頼の上、約5年に1度行います。	
下記、基本消耗パーツを中心に本体をフル点検。必要に応じ交換・補修を行います。	
基本消耗パーツ	図番
二次燃焼室	1602497
ダンパー	1301829
アーチブリック　左／右	**30006588** ／ **30006589**
サイドファイヤーブリック　左／右	1600153 ／ **30004689**
ガラス	1401120
内部パーツのファイバーロープ	
＊図番はP42、43のパーツリストに対応しています。 ＊ご使用状態により、点検後、上記基本消耗パーツ以外でも交換が必要となる場合があります。	

＊上記は、取扱説明書に準じた適正な使用状態での標準メンテナンス・スケジュールとなります。
　よって、お客様の使用状態によってはメンテナンス時期が異なる場合もあります。

薪ストーブ本体のお手入れ

注意 メンテナンスを行う際は、必ずストーブが冷えた状態で作業を行ってください。また、安全の為、ゴーグルやマスク、グローブ等を着用してください。

●クラシックブラックのお手入れ方法

必要工具等
・ワイヤーブラシ・ウェス（布）
・耐熱塗料・ストーブポリッシュ

ワイヤーブラシで本体のサビを落とし、次に乾いた布で、本体全体のほこりや汚れを落とします。

注意 濡れた布を使うときは、ストーブ表面に水分が残らないように注意してください。

＊塗装の剥がれ、劣化が見られる場合
専用の「耐熱塗料」で劣化部分または本体全体を塗装してください。

ポイント 部分塗装の場合、周囲の色と違いが出る場合がありますので、目立たない部分で試し塗りすることをお薦めします。また、ドア部分にスプレーする場合はドアガラスを取り外すなど、ガラス表面に塗料が付着しないようにご注意ください。その際、周囲に塗料が飛び散らないようにダンボール等を敷いて行います。
塗装の補修には専用の「ストーブポリッシュ」（クラシックブラック専用補修磨き剤）もご利用いただけます。

●ホウロウ仕上げのお手入れ方法

必要工具等
・ウェス（布）・ガラスクリーナー・ホウロウ補修パテ
・ホウロウ補修液・サンドペーパー

柔らかな乾いた布で、本体全体のほこりや汚れを落とします。落ちにくい汚れは、専用の「ガラスクリーナー」を使用します。

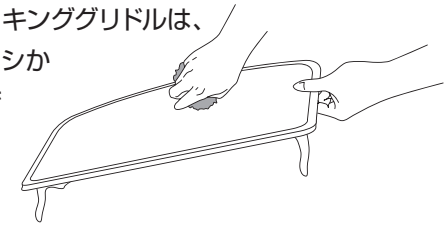
注意 研磨剤を使用した場合、表面を傷つける恐れがあります。

＊ ホウロウが剥がれてしまった場合
サビや汚れを取り除いた後、専用の「ホウロウ補修パテ」を塗り込みます。乾いたら細かいサンドペーパーで表面をならし、付属の「ホウロウ補修液」を塗って仕上げます。

●クッキンググリドルのお手入れ

必要工具等
・細毛ワイヤーブラシ
・スチールウール

錆が発生したクッキンググリドルは、細毛ワイヤーブラシかスチールウールで磨いてください。



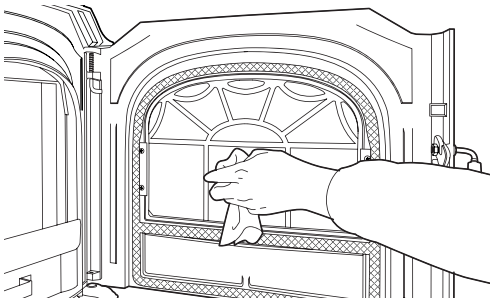
ヒント ダッチオーブンに代表される鉄鋳物調理器具にシーズニングをする要領で、ストーブに火を入れる前にクッキンググリドルの表面に植物性オイルを薄く塗り、その後通常の使用温度で使用すれば、炭化皮膜に覆われ錆びにくくなります。※油が炭化するまで煙がでますので、室内の換気を十分行ってください。

●ドアガラスのお手入れ

必要工具等
・ウェス（布）・ティッシュペーパー
・ガラスクリーナー

湿らせた布に別売りの専用「ガラスクリーナー」を付けて、汚れをよくふき取り、自然に乾かしてください。

ポイント 汚れが落ちにくいときはガラスにティッシュペーパーをあて、その上から直接ガラスクリーナーを付け、そのまましばらくガラスにティッシュペーパーを付着させておくと汚れが取れやすくなります。



メンテナンス

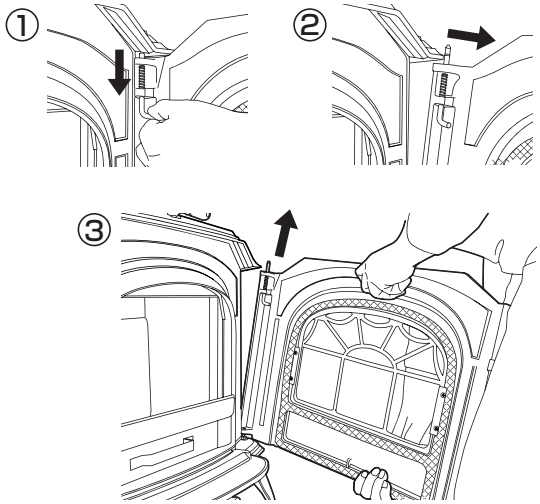
7 ドアガラスの交換

ドアガラスが破損した場合は、速やかに交換してください。

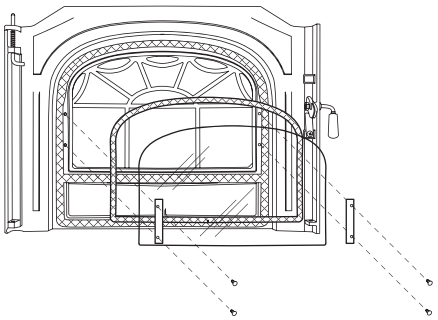
注意 必ずバーモントキャスティングスの純正耐熱セラミックガラスをお使いください。その他の代用品は決して使わないでください。
ドアガラスの表側の面には赤外線反射コーティングが施されているため、裏表が決まっております。

1 ① ドアを開けてからバネの付いた上部ヒンジピンを押し下げてください。
② 少しドアを傾けてください。
③ ドア下部のヒンジピンから持ち上げて外してください。

注意 外したドアは、表側が下になるようにし、表面にキズがつかないように毛布やダンボール等の上に置きます。ホウロウ色のドアには特に注意が必要です。ドアの納まる上下部分にも十分注意が必要です。



ポイント ガラスとドアの間にはファイバーロープが付いています。ファイバーロープはガラスとドアの間がきっちり密閉できるように、柔らかくて弾力性がなければなりません。ファイバーロープが硬くなっている場合やほつれ等の劣化が見られる場合は交換が必要です。



2 ガラスに注意をしながら、ガラスをおさえている左右のクリップを外します。（ビス 2 本ずつ）

3 破損したガラスを丁寧に外します。

4 新しいガラスがファイバーロープに均一に当たるようにします。熱反射コーティング側がストーブの外側に向くようにし、クリップでガラスをおさえ、元のように取り付けます。

注意 クリップを取り付ける際、ビスを強く締めすぎるとガラスが破損する恐れがあります。

ポイント 熱反射コーティング側の見分け方
ガラスに天井の蛍光灯等を映すと、蛍光灯がぼやけて見える側と、はっきりと見える側があります。はっきりと見える側が熱反射コーティング側です。わかりづらい場合、晴れた屋外で対象物を変えながら行うと、より判別がしやすくなります。

5 フロントドアを本体に **1** の逆の要領で取り付けます。

必要部材
・交換用ガラス　品番 1401120

必要工具等
・プラスドライバー

ファイバーロープの交換

薪ストーブの気密性を保つため、フロントドアやトップドア（クッキンググリドル）などの周囲には、ファイバーロープが使われています。使用に伴い、特に可動部分のファイバーロープは劣化し、効力が失われます。弾力性がなく、硬くなっている場合や、ほつれ等の劣化が感じられる場合は交換が必要です。
＊ ファイバーロープを使用しているパーツを下のイラストで示してあります。
※ファイバーロープ　サイズ／寸法(可動部分パーツ名称)

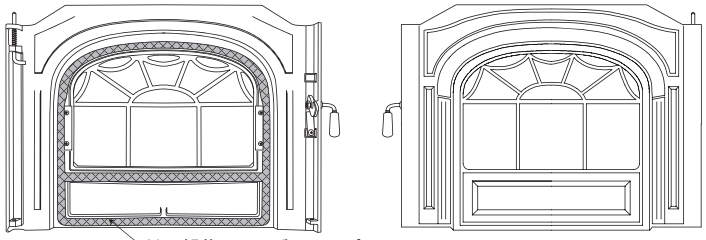
必要部材

・耐火セメントガスケット用（R77E）
・シリコンシーラント（R76A）
・ファイバーロープ

必要工具等

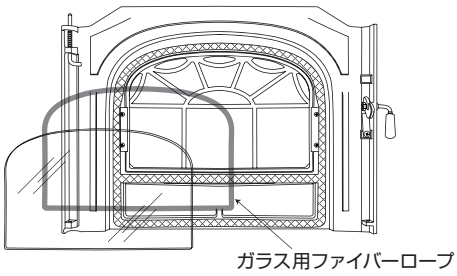
・ワイヤーブラシ
・マイナスドライバー
・タガネ
・マスキングテープ

ドア部分



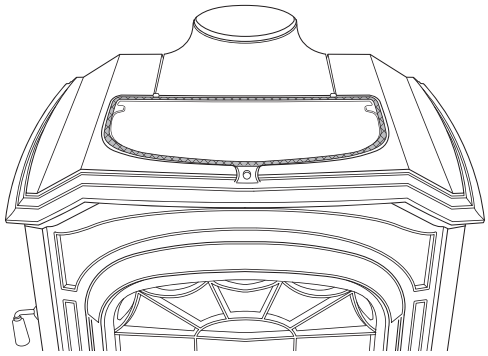
φ 12.7mm（R723）長さ 190cm

ガラス部分



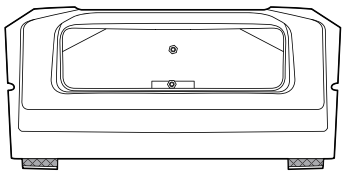
φ 4.76mm（81219）長さ 120cm

トップドア（クッキンググリドル）部分

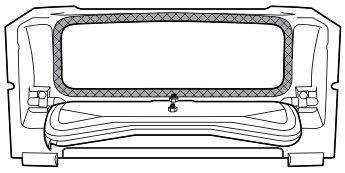


φ 7.94mm（R516GG）長さ 110mm

アッパーファイヤーバック部分



表面　φ 7.94mm（R721）長さ 8cm × 2



裏面　ダンパー廻り
φ 7.94mm（R721）長さ 100cm

●ドア部分は「シリコンシーラント」で接着されておりますが「耐火セメント」を使用することもできます。他の部分には「シリコンシーラント」は使用できません。

●上記以外のファイバーロープは非可動部分同士に使用されており、消耗度合いは異なりますので、パーツ取外し時以外は基本的に交換は不要です。

メンテナンス

7 ファイバーロープの交換

1 左右のドアを外し、作業のし易いところに置きます。

2 劣化したファイバーロープの端をつかんで、強く引っ張り外します。(図1)

3 ワイヤーブラシやドライバーの先端を使って、残ったシリコンリーラントやファイバーロープの破片を溝から取り除きます。(図 2)

注意 ホウロウ色の場合、ホウロウ部分の破損に注意して作業してください。

4 適切なサイズで規定の長さより 5cm 程長めのファイバーロープを用意し、溝に、約 3mm 厚でシリコンシーラントを注入します。(図 3)

5 ファイバーロープを溝の一方から押込んでいきます。(図 4)

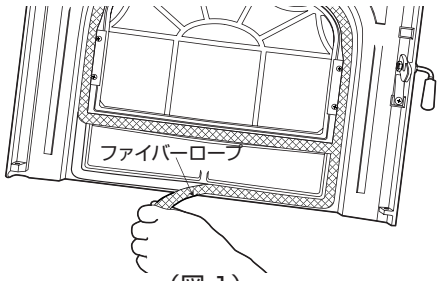
注意 弾力を持たせるため、ファイバーロープは強く伸ばさないようにしてください。

6 溝の終了部分のファイバーロープにマスキングテープを巻き、余分をカットして長さの調整を行います。(図 5)

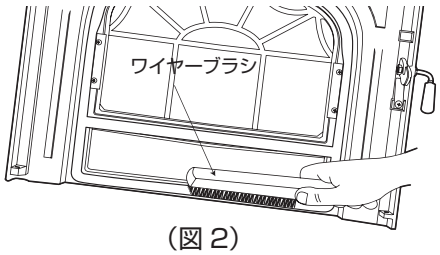
7 ドアを閉めて、該当する接触部分をファイバーロープにしっかりと密着させます。

8 ドアを再び開け、溝の周辺からはみ出したシリコンシーラントをマイナスドライバーの先で取り除き、24 時間以上常温で乾燥させます。

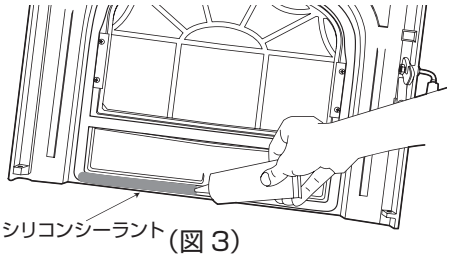
ポイント お使い始めや、ファイバーロープを交換した後、新しいファイバーロープがなじむまで、ドアハンドルやバイパスダンパーの調整を 36、37 ページに従って行います。しばらくしてハンドルの当たりがゆるんできたら、再度調整を行います。なじむまで数回調整が必要です。



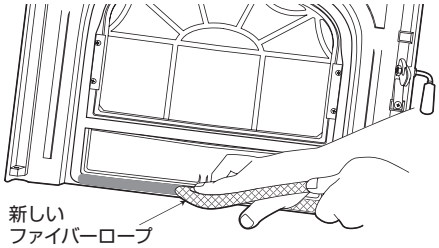
(図 1)



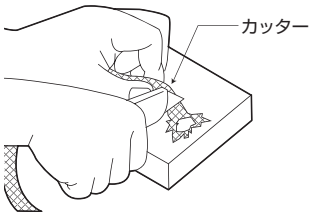
(図 2)



(図 3)



(図 4)



(図 5)

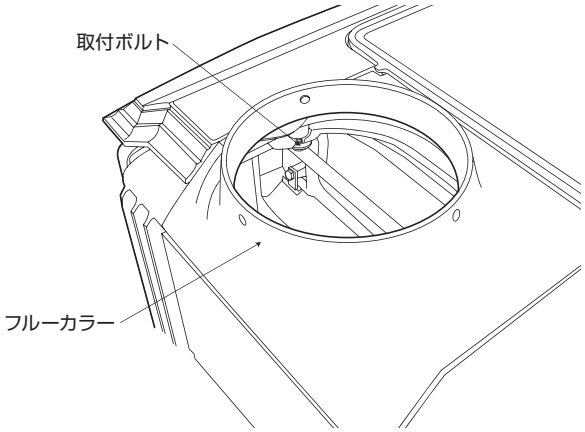
ファイバーロープの交換

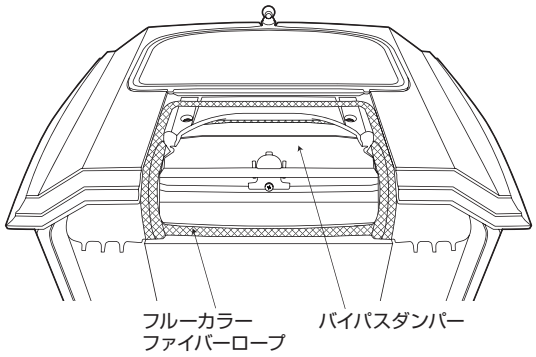
●バイパスダンパー部の ファイバーロープの交換

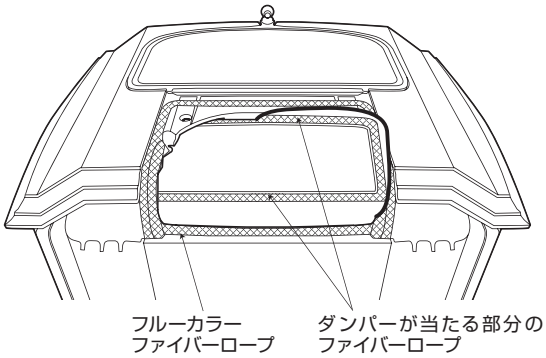
バイパスダンパー部のファイバーロープは、フロントドアを開け、バイパスダンパーが開いた状態にし、ダンパー周囲の裏側に付いているファイバーロープを手で触り、点検します。

交換する際は室内の自在煙突をスライドさせ、煙突を本体から外します。左右 2 箇所のボルトを外し、本体に付いている鋳物製のフルーカラー（煙突接続部）を取外し、この開口部から作業を行います。この時フルーカラーの付く本体の開口回りのファイバーロープも交換します。

注意 内側のボルトを本体内へ落下させないように注意してください。作業が困難な場合は販売店にご依頼ください。

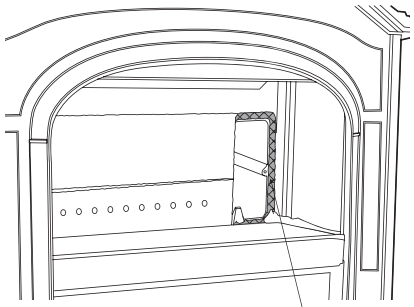






●シーリングプレート部の ファイバーロープの交換

1. シーリングプレートを 38、39 ページの順番に従って取り外します。
2. シーリングプレートが取り付けられていた位置のファイバーロープを交換します。
   ※両側縦のファイバーロープはバックパネルに付けられており、上方に繋がっておりますので、アッパーファイヤーバックを外さない場合は、見えている部分のみをカッターで切断してください。
3. 古いファイバーロープを取り、新しいファイバーロープをすき間なく付けてください。
4. 38、39 ページの逆の手順で取り付けてください。シーリングプレートの皿ネジ（+）をきつく締め過ぎないでください。



ファイバーロープ
φ 7.94mm (R721) 長さ 33cm

メンテナンス

7 ドアの調整（フロント）

密閉度テスト

定期的（シーズン前点検等の際には必ず）に密閉度テストを行います。密閉度が不十分であれば、ドアの調整が必要になります。紙をドアに挟んだ状態で閉めます。紙を引っ張り、楽に取れるようであれば、ドアの密閉度が不十分です。ドアの周囲全体に渡って行います。

ポイント ファイバーロープに弾力性がなく、硬くなっている場合やほつれ等の劣化が見られる場合はファイバーロープの交換が必要です。そのままお使いになると過剰に燃焼空気が入り火力コントロールができなくなります。過燃焼となり炉の中のパーツが歪んだりストーブの劣化を招くばかりでなく大変危険です。必ず実行してください。

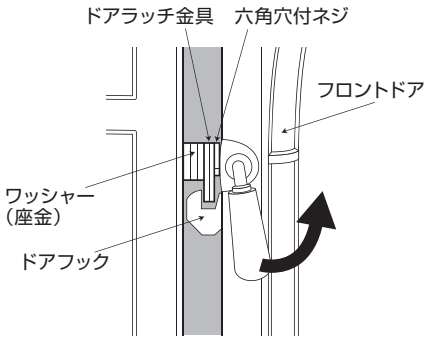
必要工具
・本体付属六角棒レンチ（大）

●フロントドアの調節

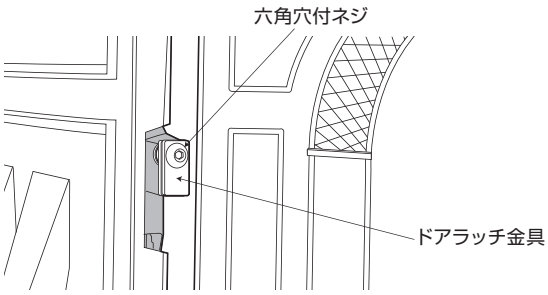
ドアラッチ金具の位置を変えることによってドアの調節ができます。

1. フロントドアを開け、ドアラッチ金具を止めている六角穴付ネジを外します。（図2）
2. ワッシャーを１枚外してドアラッチ金具を元の状態に戻します。
3. 密閉度テストを行います（図３）。必要に応じてワッシャーを増減させます。
   ワッシャーを全部外した状態で密閉が不十分な場合にはファイバーロープの交換が必要になります。

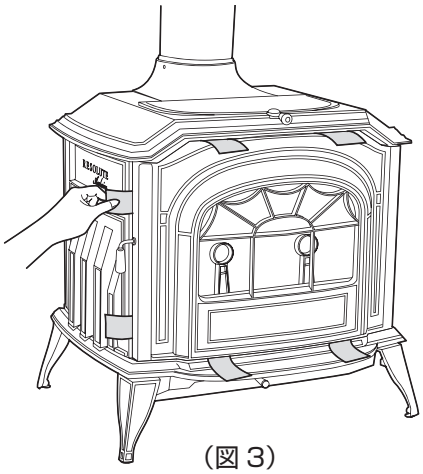
ポイント 使い始めや、ファイバーロープを交換した後、新しいファイバーロープがなじむまで、ドアハンドルの調整を行います。しばらくしてハンドルの当たりがゆるんできたら、再度調整を行います。なじむまで数回調整が必要です。



（図 1）



（図 2）



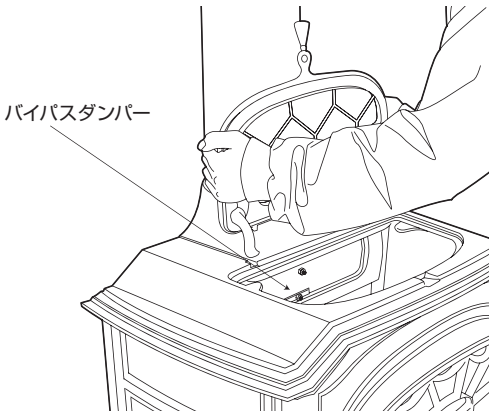
（図 3）

バイパスダンパーの調整

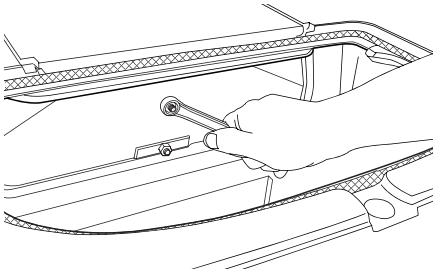
密閉度テスト

定期的（シーズン前点検等の際には必ず）に、密閉度テストを行います。その結果、密閉度が不十分であれば、アッパーファイヤーバックにあるファイバーロープに加圧するために、ダンパーロッドとバイパスダンパーの当たりを調整します。紙をダンパーに挟んだ状態で閉めます。紙を引っ張り、楽に取れるようであれば、ダンパーの密閉度が不十分です。ダンパーの周囲全体に渡って行います。

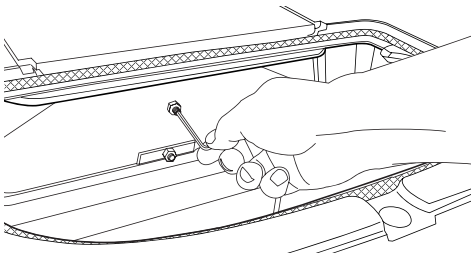
必要工具
・コンビネーションレンチ 11mm ・本体付属六角棒レンチ（小）



1 クッキンググリドルを垂直近くまで開け、そのまま上に持ち上げ、取り外します。この開口部から作業を行います。



2 バイパスダンパー中央にあるロックナットをコンビネーションレンチでゆるめます。

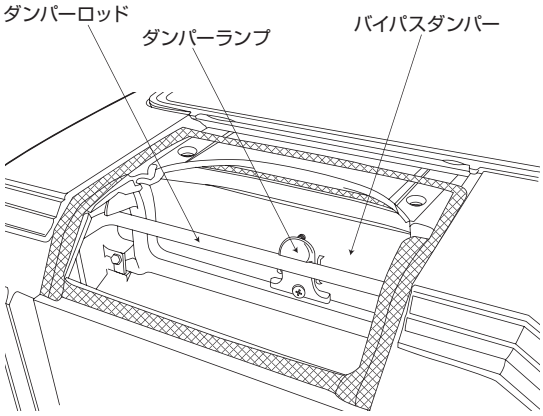


3 圧縮ネジを六角棒レンチで回転させます。時計方向に回すときつくなります。

ポイント 圧縮ネジ、ロックナットがサビ等により固着している事があります。浸透性のある潤滑剤をあらかじめスプレーしてから注意して廻してください。

4 ロックナットを締め直し、バイパスダンパーの閉まり具合、ダンパーランプとダンパーロッドの当たり具合をテストします。

ポイント しばらく使用しているとファイバーロープが圧縮され、多少、閉まり具合がゆるくなってきますので、その際にはしっかり閉まるように再調整してください。



ポイント ダンパーロッドの当たりを目視するには、室内自在の下の煙突を上方へスライドさせ、煙突をフルーカラーから外します。開口部からバイパスダンパーの裏側にある、ダンパーロッドとダンパーランプを確認することができます。

メンテナンス

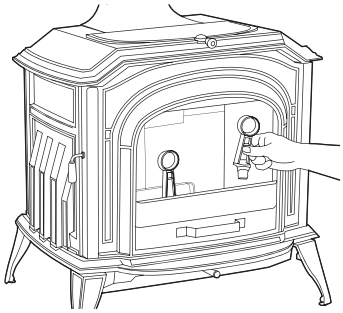
7 耐火ブリックの交換と二次燃焼室の点検清掃

シーズン前点検等の際や、煙突から黒い煙が出る、煙突がすぐつまる、バイパスダンパーを閉めると火が消えてしまう等の症状がでたときは、二次燃焼室を点検します。

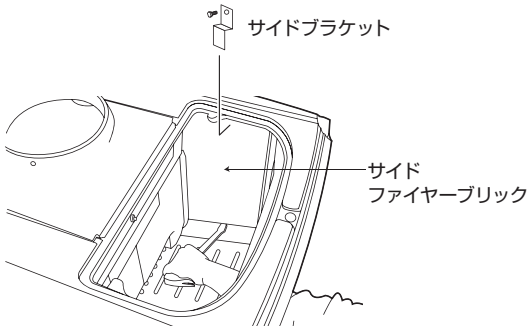
必要工具等

・コンビネーッションレンチ 11 ミリ
・バール
・#3 プラスドライバー　　・掃除機

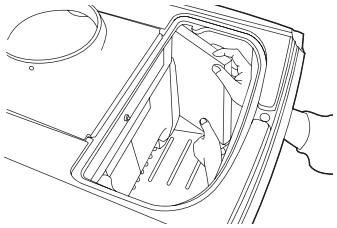
1 アンダイアンを外します。



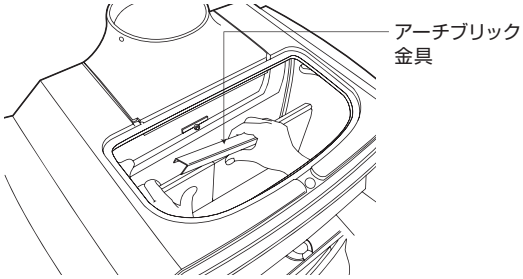
2 コンビネーションレンチ 11 ミリで左右サイドブラケットのボルトを外し、サイドブラケットを外します。サイドファイヤーブリックをバールなどで押し上げます。



3 左右のサイドファイヤーブリックを前の方から引き出します。



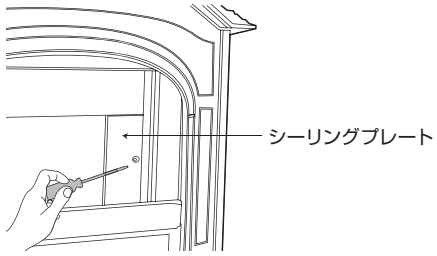
4 アーチブリック金具を外します。



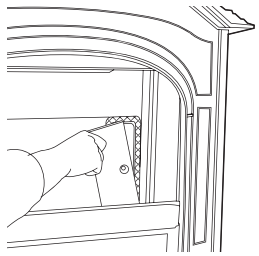
5 レフトアーチブリック、ライトアーチブリックを外します。

6 ＃3 プラスドライバーで、左右のシーリングプレートの皿ネジ（+）を外し、シーリングプレートを外します。ファイバーロープが劣化している場合には交換します。（35 ページ参照）

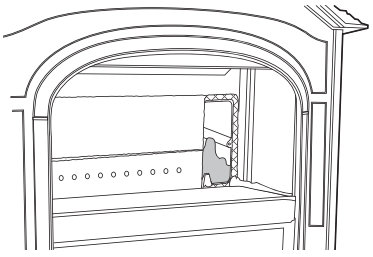
①



②



7 二次燃焼室（セラミックファイバー製）の左右の溜まった灰を掃除します。



8 戻すときは **1** から **7** の手順を逆に行ってください。シーリングプレートを取り付ける際は、二次燃焼室とすき間があかないように、またシーリングプレートが斜めにならないように注意してください。
皿ネジを締めすぎないようご注意ください。
サイドファイヤーブリック、アーチブリックが破損・劣化している場合は交換します。ヒビの幅が 3mm 以上ある場合は交換してください。

注意 二次燃焼室は壊れやすいので掃除の際に衝撃等を与えないでください。

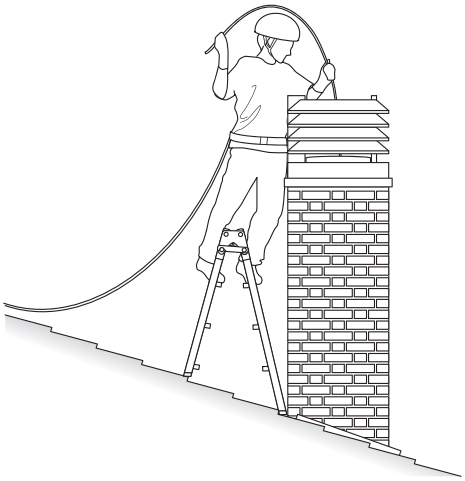
ポイント セラミックファイバー製の二次燃焼室に大きな破損がある場合、交換が必要です。お買い求めの販売店へご相談ください。

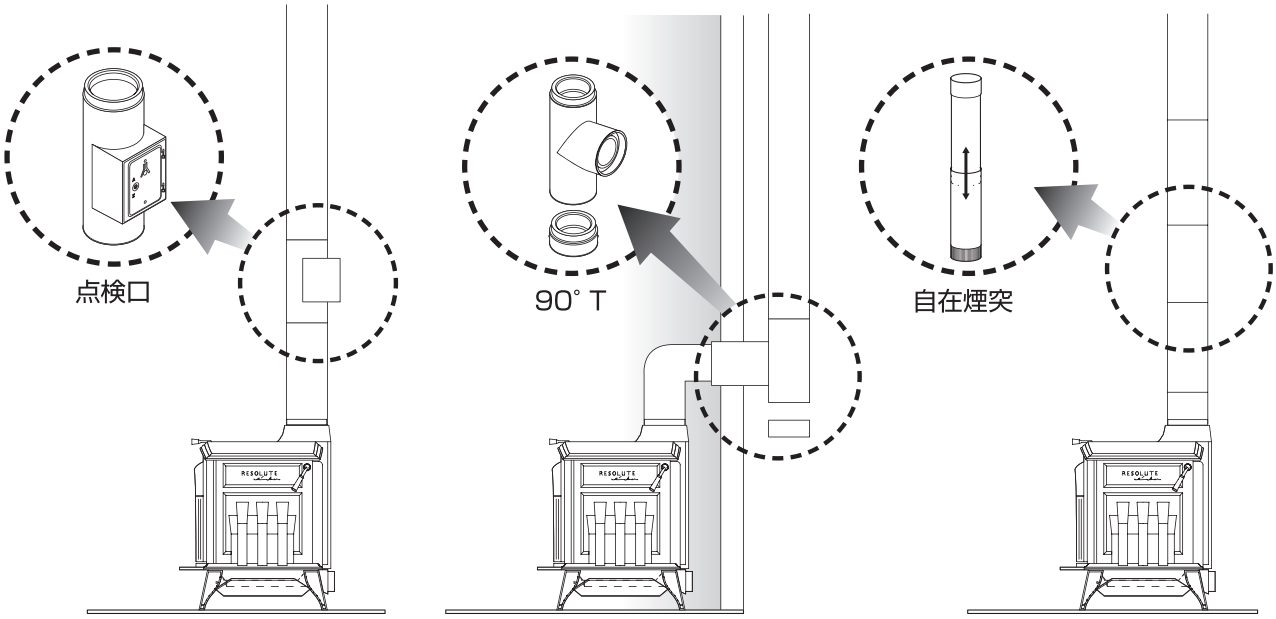
メンテナンス

7 煙突掃除

煙突の点検と掃除は一般的にストーブシーズンに入る前に行います。本体と煙突の各部分を詳細に点検します。煙突内部のスス、タールなど堆積物や鳥の巣などの閉塞物を取り除きます。掃除の目安は堆積物が３ミリメートル以上です。状況によってはシーズン中の掃除が必要になる場合もありますので、設置してからの数年は汚れ等の状況を把握するためにこまめに点検を行ってください。

- ●本体と煙突、煙突どうしの接続部がネジ、バンド等で隙間なく固定されているか確認してください。
- ●煙突の内部を点検することのできる煙突部材（自在煙突、90° T、点検口）からの堆積物の状態を確認してください。お客様により設置状況が異なりますのでお買い求めの販売店へご確認ください。
- ●煙突内堆積物の確認にあわせて鳥の巣等による、煙突のつまり、煙突トップのつまりを点検してください。
- ●点検後、清掃、修理を適切に行ってください。不明な点は販売店にお問い合わせください。
- ●点検または煙突掃除のために開閉する点検口や90° T 型煙突のプラグは、作業後にしっかりと閉鎖し固定されているか確認してください。
- ●本体、煙突は清掃後に外部、内部とも点検を行い、損傷・亀裂・劣化が確認された場合は使用を止め、直ちに販売店へ連絡し、修理を依頼してください。
- ●次の場合には必ずお買い求めの販売店へ点検を依頼してください。
  - ・煙突火災や異常燃焼が発生した場合
  - ・暴風雨または地震等の天変地異が発生した場合
  - ・本体、煙突に損傷を及ぼす可能性がある他の出来事が発生した場合

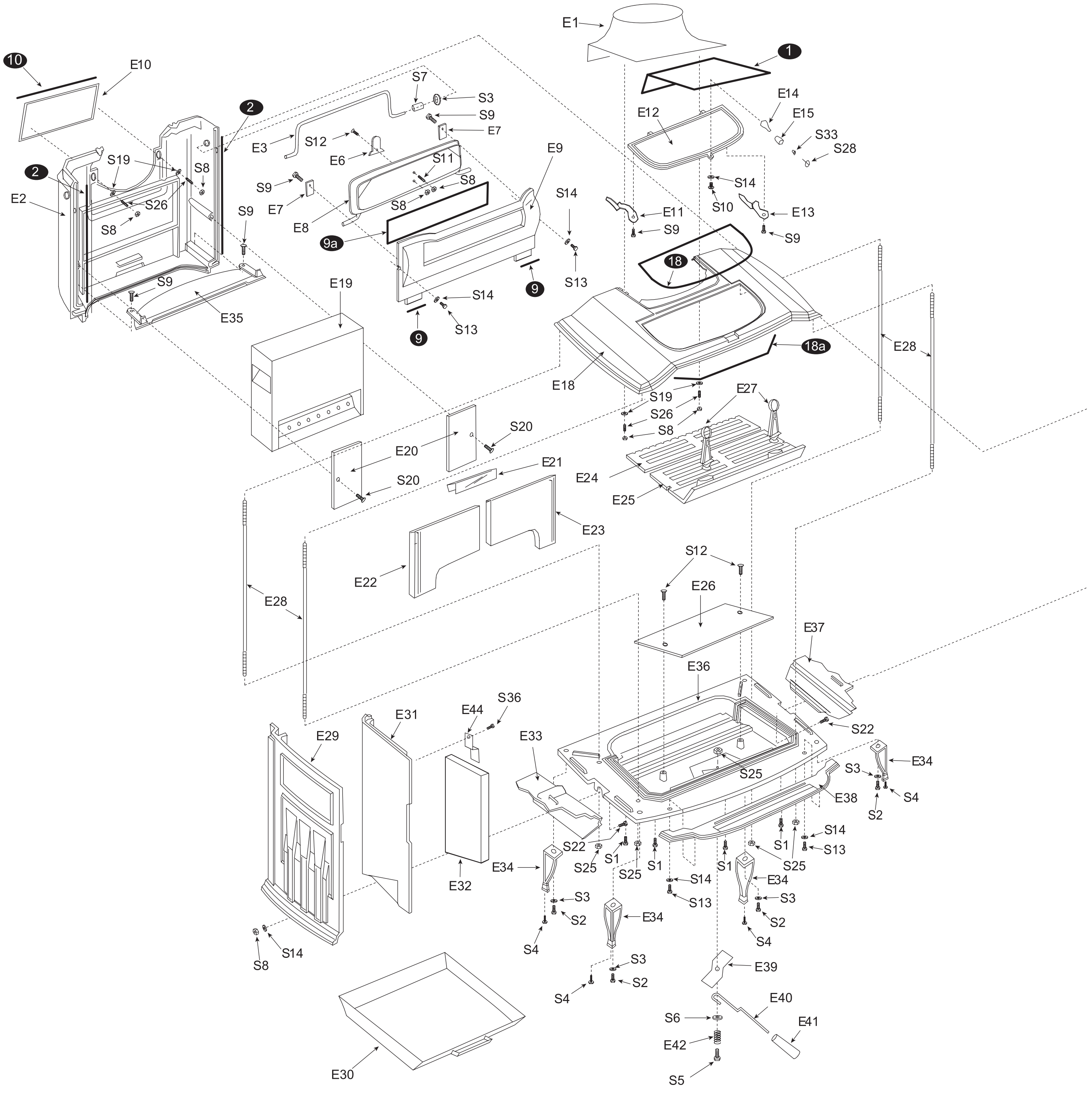




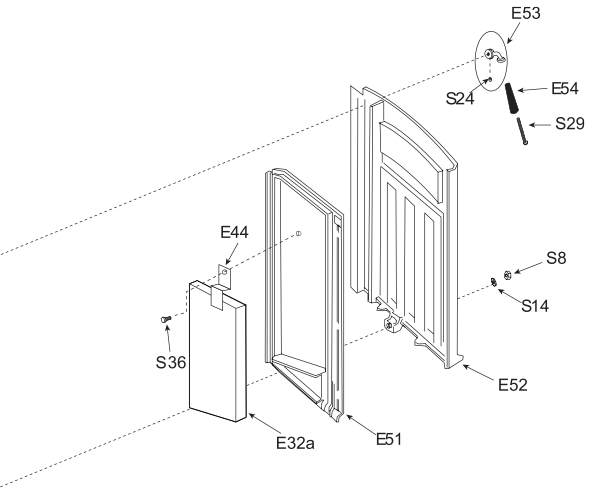
Memo

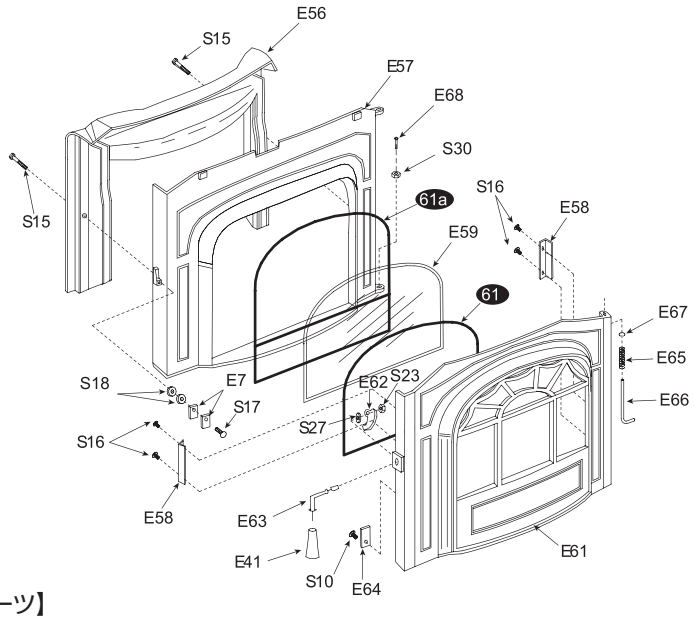
パーツリスト

8



E1
1
E14
E15
S33
S28
E12
S14
S10
E13
S9
E11
S9
18
18a
E18
E28
S19
S26
S8
E27
E24
E25
10
E10
2
E2
S19
S26
S8
S8
S9
E35
S9
S7
S3
S9
E7
E3
S12
E6
S11
S8
S9
E7
E8
S8
9a
E9
S14
S13
S14
S13
9
9
E19
E20
S20
S20
E21
E23
E22
E28
S12
E26
E37
E36
S22
E34
S3
S4
S2
E38
S25
E31
E44
S36
E33
E29
E32
S22
S25
S1
S25
S1
S14
S13
S1
E34
S3
S2
S4
S14
S13
S25
E34
S3
S2
S4
S4
E34
S3
S2
S4
S8
S14
E39
E40
S6
E41
E42
S5
E30





【ハードウェア】

図番	品　番	品　名
S1	1201322	六角ボルト 10-24X1/2-Z
S2	1201432	六角ボルト 3/8-16x1
S3	1202488	ワッシャー 3/8-Z .442iX1o.074t
S4	1201745	レッグレベラーボルト 1/4-20x1
S5	1201378	六角ボルト 1/4-20X1 1/4-FLTHD-Z
S6	1202472	ワッシャー 1/4x1
S7	1201780	スペーサー
S8	1203210	六角ナット 1/4-20
S9	1201338	六角ボルト 1/4-20x1/2
S10	1200996	TRS ネジ 10-24X1/4-Z
S11	1200436	ソケットセットスクリュー 1/4-20X1-BLK
S12	1200809	ネジ 1/4-20X1-BLK
S13	1201374	六角ボルト 1/4-20X3/4GR5-BLK
S14	1202473	ワッシャー 266iX.629o.064t
S15	1201392	六角ボルト 1/4-20X2 GR 2-Z
S16	1200984	トラスネジ 10-24X3/8-Z
S17	1200461	なべキャップスクリュー 1/4-20X3/4
S18	1202475	ワッシャー
S19	1202474	ワッシャー 1/4-Z .313iX.742o.06t
S20	1200881	ネジ 1/4-20X3/4 BLK
S22	1201376	六角ボルト 1/4-20X1" GR 5-BLK
S23	1203290	六角ナット 3/8-16
S24	1200563	ソケットセットスクリュー 5/16-18x5/16-BLK
S25	30002229	六角ナット 1/4-20 Flex Lock
S26	1204219	全ネジ 1/4"-20 X 1"
S27	1202560	ワッシャー FL3/8-Z.406i.75o.062
S28	1201308	グリドルハンドル用スロットネジ 8 – 32 X 1
S29	1201310	ネジ 1/4-20X3-（ウッドハンドル用）
S30	1203279	六角ナット 5/16-18-BLK
S33	1201900	ブッシング
S36	1201337	六角ボルト 1/4-20X3/8

【パーツ】

E1	1301816	フルーカラー
E2	1301860	バックパネル
E3	1600853	ダンパーロッド
E6	1301811	ダンパーランプ
E7	1601488	ダンパータブ
E8	1301829	ダンパー
E9	1301805	アッパーファイヤーバック
E10	1301817	フルーカラーエクステンション
E11	1301807	レフトグリドルクアッド
E11	30005118	レフトグリドルクアッド（※注）
E12	1306356	グリドル
E13	1301832	ライトグリドルクアッド
E13	30005119	ライトグリドルクアッド（※注）
E14	1600881	グリドルハンドルスタブ
E15	1600661	グリドルノブ（木）
E18	1301862	トップ
E19	1602497	二次燃焼室
E20	1301859	シーリングプレート
E21	30006590	アーチブリック金具
E22	30006588	レフトアーチブリック
E23	30006589	ライトアーチブリック
E24	1301851	リアーグレート
E25	1301852	フロントグレート
E26	1301804	ビットプレート
E27	1301806	アンダイアン
E28	5007499	タイロッドセット（4本）
E29	1301857	レフトサイド
E30	5005775	アッシュパン
E31	1301855	レフトインナープレート

※グリドルクアッドは製造時期により品番が異なります。

E32	1600153	レフトサイドファイヤーブリック
E32a	30004689	ライトサイドファイヤーブリック
E33	1301863	レフトショルダープレート
E34	1301833	レッグ
E35	1301809	パッケージサポートプレート
E36	1301854	ボトム
E37	1301864	ライトショルダープレート
E38	1301819	アッシュリップ
E39	1301814	エアーバルブ
E40	1600621	エアーバルブシャフト
E41	1600663	アッシュドアハンドル（木）
E42	1201846	フリクションスプリング
E44	30006591	サイドブラケット
E51	1301856	ライトインナープレート
E52	1301858	ライトサイド
E53	30002720	ダンパーハンドルベースアッセンブリー
E54	1600664	ウッドハンドル　黒
E56	1301803	フロントエアーマニホールド
E57	1301861	フロント
E58	1601399	ガラスクリップ
E59	1401120	ガラス
E61	1301865	ドア
E62	1600155	ドアフック
E63	1600623	ドアハンドルシャフト
E64	1201843	ラッチスプリング
E65	1600551	ドア用スプリング
E66	1600550	アッパードアピン
E67	1600553	C クリップ
E68	1600419	ボトムヒンジロッド

【ファイバーロープ】

図番	品番	取付場所	必要長さ
1	R721	トップ及バック　フルーカラー裏	130cm
2	R721	バック・パネル内側	50cmx2
9	R721	アッパー・ファイヤーバック	8cmx2
9a	R721	アッパー・ファイヤーバック裏　ダンパー廻り	100cm
10	R721	フルーカラー・エクステンション	26cm
18	R516GG	トップ・グリドル（ワイヤー付）	110cm
18a	R721	トップ（天板）裏	60cm
61	81219	ドアガラス	120cm
61a	R723	ドア	190cm

トラブルシュート

9

トラブル	原因	解決策
薪が燃えない	薪は十分に乾燥していますか?	十分に乾燥した薪を使用してください。もし十分に乾燥した薪が入手困難な場合は、できるだけ細かく割って使用してください。薪については「薪について」(14 ページ) をご参照ください。
	最初から太めの薪をくべていませんか?	焚き始めは細い薪に着火し、序々に太い薪をくべてください。燃焼については「焚き方 (19 ページ)」をご参照ください。
	火力調整レバーを閉じていませんか?	火力調整レバーを着火時は全開にしてください。
	煙突の中がススでつまっていませんか?	煙突の中にススが 3 mm以上付着している場合は、煙突の掃除をしてください。煙道火災を防ぐ為にも定期的な点検及び、メンテナンスが必要です。
	煙突が冷えていませんか?	煙突が冷えていると上昇気流が弱いので、燃えにくい場合があります。煙突を暖める強制的な上昇気流のおこし方については「薪の着火と燃焼維持」18 ページをご参照ください。
	バイパスダンパーを閉めるタイミングが早くありませんか?	クッキンググリドルの表面温度が 260℃以上になったことを確認し、バイパスダンパーを閉めてください。詳しくは 19 ページの⑧をご参照ください。
	換気扇を使用していませんか?	換気扇使用中に薪ストーブを焚くと、煙突内の上昇気流力が弱まり、燃えにくい場合があります。ご使用をおやめになり、お買い上げの販売店へご相談ください。
バイパスダンパーを閉めると火が消えてしまう	バイパスダンパーを閉める温度は適切ですか?	クッキンググリドルの表面温度が 260℃以上になったことを確認し、バイパスダンパーを閉めてください。詳しくは 19 ページの⑧をご参照ください。
	二次燃焼室がつまっていませんか?	二次燃焼室の点検については「メンテナンス」の二次燃焼室の点検 (38 ～ 39 ページ) をご参照ください。
薪が早く燃えすぎる	バイパスダンパーを開けたまま焚いていませんか?	クッキンググリドルの表面温度が 260℃以上になったことを確認し、バイパスダンパーを閉めてください。詳しくは 19 ページの⑧をご参照ください。
	火力調整レバーを全開のまま焚いていませんか?	火力調整レバーで火力を調節してください。
	火力のない古い薪や腐敗のすすんだ薪、火持ちの悪い軟木や細い薪を使用していませんか?	くべる時は、適度に乾燥した火持ちのよい堅木の薪や太い薪を使用してください。
	クッキンググリドルやフロントドアのファイバーロープが消耗し、空気をすいこみすぎていませんか?	消耗していれば新しいファイバーロープに取り替えてください。取り替え方法については 33 ページ「メンテナンス」のファイバーロープの交換をご参照ください。
	煙突は長すぎませんか?	煙突が長すぎると上昇気流が強すぎ、必要以上に燃えてしまいます。煙突ダンパーの設置をおすすめします。詳しくはお買い上げの販売店へご相談ください。

煙が室内にもれ出る	バイパスダンパーを閉めたまま、クッキンググリドルやフロントドアを開けていませんか？	バイパスダンパーを開けたことを確認してから、クッキンググリドルやフロントドアを開けてください。
	換気扇を使用していませんか？	換気扇使用中に薪ストーブを焚くと、煙突内の上昇気流カ弱まり、煙が逆流する場合があります。ご使用をおやめになり、お買い上げの販売店へご相談ください。
	煙突の中がススでつまっていませんか？	煙突の中にススが3mm以上付着している場合は、煙突の掃除をしてください。
	煙突トップ付近で強風がふいていませんか？	強風により、煙が逆流する場合があります。 ※詳しくはお買い上げの販売店へご相談ください。
	曲がりの多い、あるいは横引き部分が長い煙突設置ではありませんか？	曲がりが多い、あるいは横引き部分が長い煙突設置では煙の流れが悪くなります。その結果、煙突が冷えやすく、ススもたまりやすくなります。煙突を十分に暖めてからご使用ください。煙突の暖め方は18ページ「薪の着火と燃焼維持」をご参照ください。改善されない場合、お買い上げの販売店へご相談ください。
	室内に、燃焼に必要な空気は十分にありますか？	高気密住宅では、燃焼に必要な空気が不足する場合があります。窓などを開けて空気を取り込むか、専用の給気アダプターを取り付けてください。 ※詳しくはお買い上げの販売店へお問い合わせください。
	煙突は短かすぎませんか？（5 m未満）	煙突の高さ 5 m未満の場合、上昇気流が弱く室内に煙が逆流してしまうことがあります。詳しくはお買い上げの販売店へご相談ください。
ドアガラスがひどく曇る	火力調整レバーをしぼるタイミングが早すぎませんか？	低温度域で火力調整レバーをしぼると、不完全燃焼になりクレオソートやススが発生しやすくなります。十分に暖まってからバイパスダンパーを閉め、火力調整レバーを調節してください。火力調整レバーをしぼるタイミングについては 19、20 ページ「薪の着火と燃焼維持」をご参照ください。
	バイパスダンパーを閉めるタイミングが早くありませんか？	クッキンググリドルの表面温度が 260℃以上になったことを確認し、バイパスダンパーを閉めてください。
	フロントドアが少し開いていませんか？	フロントドアをきちんと閉めてください。
	クッキンググリドルやフロントドアのファイバーロープが消耗し、空気をすいこみすぎていませんか？	消耗していれば新しいファイバーロープに取り替えてください。取り替え方法については 33 ページ「メンテナンス」のファイバーロープの交換をご参照ください。

トラブルシュート

9

ススが煙突に つまりやすい	乾燥が不十分な薪を使用していませんか？	十分に乾燥した薪が入手困難な場合は、できるだけ細かく割って使用してください。薪については 14 ページ「薪について」をご参照ください。
	二次燃焼室がよごれていませんか？	二次燃焼室の点検については「メンテナンス」の二次燃焼室の点検清掃（38～39 ページ）をご参照ください。
	屋外でシングル煙突を使用していませんか？	屋外でシングル煙突を使用すると、外気の影響により冷えやすく、煙突の中が結露する原因となります。その結露にススが付着すると、煙道火災、煙の逆流、煙突内部のよごれの原因となりますので、断熱二重煙突に交換してください。※詳しくはお買い上げの販売店へご相談ください。
	焚く温度が低すぎませんか？	低温度域で使用すると、不完全燃焼になりクレオソートやススが発生しやすくなります。通常薪ストーブを焚く時は 175℃以上でご使用ください。使用温度域については 20 ページ「薪の着火と燃焼維持」をご参照ください。
	バイパスダンパーを閉めずに火力調整レバーをしぼっていませんか？	バイパスダンパーを開けたまま燃焼させると、二次燃焼機能を働かせることができず、未燃焼物が多くなり煙突にススがつきやすくなります。バイパスダンパーを閉め、十分に暖まってから火力調整レバーをしぼってください。燃焼については 20 ページ「薪の着火と燃焼維持」をご参照ください。
	曲がりが多い、あるいは横引き部分が長い煙突設置ではありませんか？	曲がりが多い、あるいは横引き部分が長い煙突設置では煙の流れが悪くなります。その結果、煙突が冷えやすく、ススもたまりやすくなります。煙突を十分に暖めてからご使用ください。煙突の暖め方については 18 ページ「薪の着火と燃焼維持」をご参照ください。
温度が上がらない	十分に乾燥していない薪、火力のない古い薪や腐敗のすすんだ薪、太すぎる薪を使用していませんか？	早く温度を上げたい時は細い薪や十分に乾燥させた薪を細かく割って、多めに使用すると効果的です。薪をくべる時は、十分に乾燥した火持ちのよい堅木の薪を使用してください。薪については14 ページ「薪について」をご参照ください。
	薪の量が少な過ぎませんか？	長い時間燃やすための太い薪（直径 10cm 以上）を 3 本以上入れて様子をみてください（ストーブ内に薪をいっぱいに詰めすぎないでください）。
	バイパスダンパーを閉めるタイミングが早くありませんか？	クッキンググリドルの表面温度が 260℃以上になったことを確認し、バイパスダンパーを閉めてください。詳しくは 19 ページの⑧をご参照ください。
	火力調整レバーを閉じていませんか？	火力調整レバーを全開にしてください。
バイパスダンパーが 開閉しない	ダンパーハンドルは動きますか？	低温度域で使用した場合や乾燥が不十分な薪を燃やした場合、ヤニが多く燃え残り、バイパスダンパーの回りに付着してしまうことがあります。その際は薪などでバイパスダンパーを軽くたたいてください。また、バイパスダンパーの開閉がきつすぎるときは、調節が必要です。「メンテナンス」37 ページのバイパスダンパーの調整をご参照ください。
	本体は水平に設置されていますか？	本体がななめの状態ではバイパスダンパーが開閉しにくいことがあります。脚の水平調節ネジで本体を水平になおしてください。
	焚きすぎによりバイパスダンパーが変形していませんか？	正常温度域をこえて薪ストーブを使用すると鋳物が変形することがあります。変形部分を交換してください。※修理はお買い上げの販売店へご相談ください。

保証とアフターサービス

修理を依頼される前に
まずトラブルシュートで確認してください。トラブルシュートにない異常や破損がある時は、使用をやめ、お買い上げの販売店にご相談ください。

ご不明な点や修理に関するご相談は
故障・修理あるいは部品のお取り替えに関するご相談、ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店にお問い合せください。

保証書（別添）
保証書は、取扱説明書に同封してあります。
「お買い上げ日・販売店名」等の記入をご確認ください。「お買い上げ日・販売店名」などの記入もれがあると、保証いたしかねますのでご注意ください。（記入もれのある場合は、お買い上げの販売店にお申し出ください）保証書は内容をよくお読みになった後、大切に保管してください。

保証期間
保証期間は保証書記載の期間です。この期間中に正常な使用状況で問題が発生した場合、保証書の規定に従って修理させていただきます。
保証期間中の修理に際しましては必ず保証書をご提示ください。保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合に限り、ご希望により有料で修理いたします。お買い上げいただいた販売店か弊社までお問い合わせください。

修理料金の内容
修理料金は部品代などで構成されています。
技術料／故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代／修理に使用した部品代金です。

取扱説明書ダウンロード
ファイヤーサイドのホームページより常に最新版の取扱説明書をダウンロードいただけます。
http://www.firesidestove.com/knowledge/usersupport

バーモントキャスティングス日本総代理店
ファイヤーサイド株式会社

本社／ショールーム 〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂 497-871
TEL：0265-82-4676(代) FAX：0265-82-4683

0120-46-7877 Email: info@firesidestove.com

薪ストーブの世界・ファイヤーサイド http://www.firesidestove.com
薪ストーブエッセイ・森からの便り http://fireside-essay.jp

Copyright 2014 Fireside Company Ltd.©
掲載されている全ての情報及び写真、イラスト等の無断転載、複写、複製を禁じます。

FS-14.06